

令和4年度

事業年報

公益財団法人 岡山県健康づくり財団

## はじめに

当財団は平成3年8月に設立されて以来、県民皆様の疾病予防や健康づくりを支援するとともに県や市町村の保健衛生、環境施策を補完する事業により地域に貢献することを目指して、健康診断事業をはじめ、各種環境検査事業、病院事業、健康づくり支援事業等に取り組んでまいりました。

この冊子は、当財団の令和4年度における事業内容の記録として作成したものであります。なお平成26年度版より、冊子の印刷発行は行わず、ホームページ上でデータを公開するのみとしております。

ご高覧のうえご指導を賜りますとともに業務の参考としていただければ幸甚に存じます。

今後ともより一層のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

理事長 松山正春



## 目 次

I	事業内容	1
II	役員名簿	2
III	組織	
1	組織図	3
2	職種別、組織別職員数	4
IV	事業報告	
1	保健部	5
(1)	住民健診	5
1.	特定健診・後期高齢者健診	5
2.	肝炎ウイルス検査	7
(2)	保健指導	8
(3)	一般健康診断	9
(4)	特殊健康診断	10
(5)	胸部X線検診（結核検診・肺がん検診）	11
(6)	胃がん検診	16
(7)	子宮がん検診	19
(8)	乳がん検診	22
(9)	大腸がん検診	25
(10)	前立腺がん検診	28
(11)	骨粗鬆症検診	31
(12)	学校保健検査	32
1.	尿検査	32
2.	寄生虫検査	34
3.	貧血検査	35
4.	心臓検診	36
5.	小児生活習慣病予防健診	38
(13)	先天性代謝異常等検査	40
2	環境部	41
(1)	飲料水検査	41
(2)	簡易専用水道検査	43

(3) 浄化槽法定検査	4 5
(4) 岡山県浄化槽水質管理実施要綱に基づく検査	4 7
(5) 産業排水検査	4 8
(6) 河川水検査	4 9
(7) 食品検査	5 1
(8) 腸内細菌検査等	5 2
(9) その他の検査	5 3
3 精度管理室	5 4
4 食鳥検査事業	5 7
5 附属病院	6 0
(1) 外来状況	6 0
(2) 入院状況	6 1
(3) リハビリテーション	6 1
(4) 先進の医療機器による検査	6 1
(5) 安全・安心な患者満足度の高い医療の提供	6 1
(6) 地域連携の推進	6 2
(7) 結核医療連携拠点病院の指定	6 2
(8) 指導・相談	6 2
(9) 財団各部門との連携	6 3
(10) 難病相談・支援事業	6 3
6 南部健康づくりセンター	6 4
(1) 健康増進事業	6 4
1. ヘルスチェックの状況	6 4
2. 増進施設利用状況	6 6
3. お手軽教室	6 6
4. 健康づくり栄養講座及び外部講師料理教室	6 8
5. リラクゼーションセミナー	6 9
6. 健康増進指導体験事業	7 0
(2) 教育・研修部門事業など	7 0
1. 講師派遣事業	7 0
2. 図書の貸し出し	7 2
3. 大会議室・小会議室・栄養指導室・多目的聴講室	7 2

4. 研究室の開放	7 2
(3) 調査・研究事業	7 3
1. 業績	7 3
(4) スポーツ医科学部門	7 3
1. 受診者数及びその内訳	7 3
(5) 健康診断（人間ドック）部門	7 3
1. 人間ドック	7 3
2. 脳ドック	7 8
3. らせんC T胸部検診	7 9
(6) 健康診断（施設健診）部門	8 0
1. 健診種別件数	8 0
2. 岡山市がん検診要精密検査数	8 0
3. 特定健診保健指導対象者数	8 0
7 普及啓発事業	8 1
(1) 財団の広報	8 1
(2) 結核予防に関する事業	8 1
(3) がん予防に関する事業	8 1
(4) 禁煙の普及啓発に関する事業（岡山県禁煙問題協議会）	8 2
(5) 助成事業	8 3
(6) 会議等の開催	8 4

# I 事業内容

- (1) 健康づくり及び結核、がん、循環器疾患等の予防に関する知識の普及啓発及び調査研究
- (2) 健康づくりの実践活動に対する指導及び援助
- (3) 結核、がん、生活習慣病等の健康診査
- (4) 保健及び医療に関する情報の収集及び提供
- (5) 保健医療従事者及び健康づくり指導者の養成及び研修
- (6) 結核及び呼吸器疾患を中心とする医療
- (7) 保健及び医療に関する臨床検査
- (8) 食品衛生に関する試験検査
- (9) 浄化槽法定検査事業
- (10) 飲料水水質の試験検査
- (11) 簡易専用水道検査事業
- (12) 環境計量証明事業
- (13) その他生活環境の保全に関する試験検査
- (14) 食鳥検査事業
- (15) その他財団の目的を達成するために必要な事業

## II 役員名簿

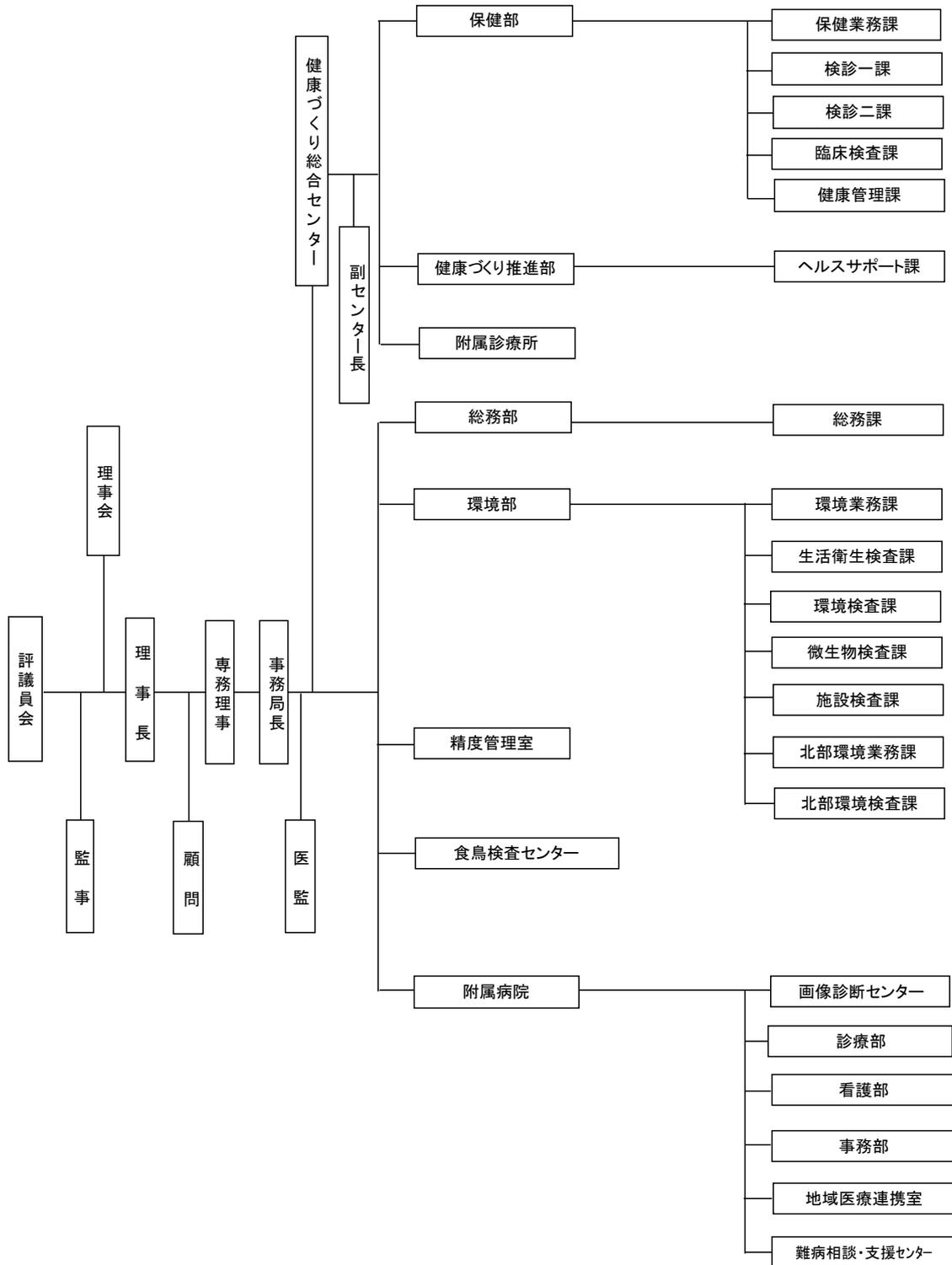
令和4年4月1日現在

役職名	氏名	備考
評議員	西嶋康浩	岡山県保健福祉部長
〃	清水信義	岡山県医師会副会長
〃	難波義夫	岡山県病院協会会長
〃	平田洋	岡山市医師会長
〃	宮本亨	津山市医師会長
〃	豊岡伸一	岡山大学医学部長
〃	内山登	岡山県議会議員
〃	福永仁夫	川崎医科大学長
〃	西岡宏樹	岡山県歯科医師会長
〃	伊達元英	岡山県薬剤師会長
〃	伊東香織	岡山県市長会長
〃	山崎親男	岡山県町村会長
〃	岡崎文代	岡山県愛育委員連合会長
〃	中島玲子	岡山県栄養改善協議会長
理事長 (代表理事)	松山正春	岡山県医師会長
専務理事 (業務執行理事)	渡邊知美	岡山県健康づくり財団専務理事
理事	江草明彦	山陽新聞社会事業団専務理事
〃	岡崎邦泰	日本乳がん検診学会名誉会員
〃	坂本八千代	岡山県栄養士会長
〃	宮田明美	岡山県看護協会会長
〃	二宮忠矢	岡山県健康づくり財団 健康づくり総合センター副センター長
〃	二階堂日出伸	岡山県健康づくり財団環境部長
〃	西井研治	医監(兼)岡山県健康づくり財団附属病院長 (兼)健康づくり総合センターセンター長
〃	岸本寿男	岡山県健康づくり財団 健康づくり総合センター保健部附属診療所副所長
〃	関明穂	岡山県健康づくり財団 健康づくり総合センター健康づくり推進部長
監事	有本耕平	弁護士
〃	小川洋一	公認会計士・税理士

# III 組織

## 1 組織図

令和4年4月1日現在



## 2 職種別・組織別職員数

令和4年4月1日現在

	事務職	医師	保健師・ 看護師・ 准看護師	診療放射 線技師	臨床検査 技師	理学 療法士	環境 検査技師	薬剤師	栄養士・ 調理員	介護職	運動 指導員	獣医師	合 計
総務部	15												15
保健部	45	6	31	14	20	2			1				119
環境部 精度管理室	14				1		64						79
食鳥検査 センター	1											17	18
附属病院	11	7	44	2	1	2		2	11	13			93
健康づく り推進部	10	2	6	5	5				1		5		34
合 計	96	15	81	21	27	4	64	2	13	13	5	17	358

# IV 事業報告

## 1 保健部

### (1) 住民健診

#### 1. 特定健診・後期高齢者健診

##### 1) 健診概要

目的：生活習慣病の予防

対象：特定健診：医療保険加入者で、実施年度中に40～74歳になる者  
後期高齢者健診：75歳以上の者

補足)・今年度75歳の方は誕生日前日までは特定健診となる。

・医療保険加入者：国保加入者及び、被用者保険の被扶養者を対象として集計している。

##### 2) 実施状況

14市町から委託を受け、11,494人の健診を実施し、前年度に比べ60人(0.5%)の減少であった。

#### ① 受診者数の年次推移

(人)

区分		H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度
特定健診	国保	8,979	8,760	5,541	6,415	6,405
	他健保	4,683	3,559	2,852	2,714	2,444
後期高齢者健診		3,608	3,606	2,012	2,163	2,378
その他		336	310	169	262	267
計		17,606	16,235	10,574	11,554	11,494

#### ② メタボリックシンドローム判定内訳(国保、他健保)

(人)

区分	性別	受診者数	メタボリックシンドローム判定結果内訳		
			基準該当	予備群	非該当

国保	男性	2,723	729	26.8%	411	15.1%	1,583	58.1%
	女性	3,682	280	7.6%	182	4.9%	3,220	87.5%
他健保	男性	94	27	28.7%	16	17.0%	51	54.3%
	女性	2,350	140	6.0%	83	3.5%	2,127	90.5%
合計	男性	2,817	756	26.8%	427	15.2%	1,634	58.0%
	女性	6,032	420	7.0%	265	4.4%	5,347	88.6%
	計	8,849	1,176	13.3%	692	7.8%	6,981	78.9%

### 3) 健診方法

#### ① 健診項目

##### ・基本的な健診の項目

###### 問診

身体計測 (身長、体重、腹囲、BMI。後期高齢者健診は腹囲なし)

理学的所見 (身体診察)

血圧 (収縮期血圧、拡張期血圧)

血中脂質検査 (中性脂肪、HDL-コレステロール、LDL-コレステロール)

肝機能検査 (AST、ALT、 $\gamma$ -GTP)

血糖検査 (空腹時血糖、ヘモグロビンA1c。いずれかの項目の実施で可)

尿検査 (尿糖、尿蛋白)

##### ・詳細な健診の項目 (医師の判断による追加項目)

貧血検査 (赤血球数、血色素量、ヘマトクリット値)

心電図検査

眼底検査

クレアチニン検査

#### ② メタボリックシンドロームの判定基準

##### ・必須条件

腹囲： 男性 85 cm以上、女性 90 cm以上

##### ・以下の項目で該当するリスクの数により判定

血糖： 空腹時血糖 110 mg/dl 以上、随時の場合は HbA1c 6.0%以上  
または服薬中

脂質： 中性脂肪 150 mg/dl 以上、または HDL-コレステロール 40 mg/dl 未満  
または服薬中

血圧： 収縮期 130 mmHg 以上、または 拡張期 85 mmHg 以上  
または服薬中

基準該当 …… 2個以上該当  
予備群該当 …… 1個該当  
非該当 …… 0個

## 2. 肝炎ウイルス検査

### 1) 検査概要

目的： B型・C型肝炎から肝硬変・肝がん等に悪化するのを予防するため  
(B型・C型肝炎の早期発見、早期治療)  
対象： 当年度40歳になる者(節目検診)又は過去に受診したことがない者

### 2) 実施状況

12市町から委託を受け実施した。  
B型肝炎検査は、618人の健診を実施し、前年度に比べ181人(22.7%)の減少であった。  
C型肝炎検査は、624人の健診を実施し、前年度に比べ173人(21.7%)の減少であった。

#### ① 受診者数の年次推移

(人)

区分		H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度
肝炎ウイルス検査	B型肝炎検査	1,160	1,178	778	799	618
	C型肝炎検査	1,157	1,178	778	797	624

#### ② 陽性率

B型肝炎検査： 陽性者数は2人で、陽性率は0.32%であった。  
C型肝炎検査： 感染者数は0人で、感染率は0.00%であった。

### 3) 検査方法

B型肝炎検査： HBs抗原検査(定性)  
C型肝炎検査： 問診、HCV抗体検査(CLEIA法)、HCVコア蛋白測定によるHCV抗原検査、HCV-RNA定量検査

## (2) 保健指導

### 1) 指導概要

目的：対象者が自らの健康状態を自覚し、生活習慣の改善のための自主的な取り組みを継続的に行うことができるよう支援する  
 対象：健康診断の結果、健康の保持に努める必要がある者  
 ただし、特定保健指導については医療保険者により、動機づけ支援または積極的支援に階層化された者

### 2) 実施状況

地域では450人の保健指導を実施し、前年度に比べ29人(6.1%)の減少であった。

職域では1,929人の保健指導を実施し、前年度に比べ225人(10.4%)の減少であった。

全体では前年度に比べ254人(9.6%)の減少であった。

#### ① 受診者数の年次推移

(人)

区分	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度
地域	248	434	371	479	450
職域	1,660	1,479	1,624	2,154	1,929
計	1,908	1,913	1,995	2,633	2,379

#### ② 年齢階層別実施状況

(人)

積極的支援		40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳～	計
地域	男性	31	24	18	0	73
	女性	6	8	8	0	22
職域	男性	383	324	49	0	756
	女性	61	65	9	0	135
計		481	421	84	0	986

動機付け支援		40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳～	計
地域	男性	6	11	83	119	219
	女性	8	14	44	70	136
職域	男性	295	229	69	12	605
	女性	126	152	59	14	351
計		435	406	255	215	1,311

その他保健指導		39歳以下	40～49歳	50～59歳	60歳～	計
職域	男性	43	1	1	0	45
	女性	32	1	3	1	37
計		75	2	4	1	82

### 3) 指導方法

期間：6ヵ月間

支援：面接 … 個別または8人以下のグループ

通信 … 手紙、メール、電話

## (3) 一般健康診断

### 1) 健診概要

目的：事業所就業者の健康管理と疾病の早期発見

対象：事業所就業者

### 2) 実施状況

65,549人の健診を実施し、前年度に比べ907人（1.4%）の減少であった。

#### ① 受診者数の年次推移

(人)

区分	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度
実施人員	94,509	94,530	72,844	65,456	64,549

### 3) 健診方法

#### ① 健診項目

労働安全衛生法で定める検査項目を基本としている。

#### ② 健診区分

区分	時期	項目	備考
雇入れ時	雇入れ時	① 既往、業務歴の調査 ② 自覚症状	労働者の採用時に実施
一般	1年以内に 1回	③ 身長、体重、BMI 腹囲、視力、聴力 ④ 胸部X線、喀痰 ⑤ 血圧、尿糖、尿蛋白	④を除き特定業務従事者等は 6ヶ月以内に1回

	⑥ 貧血検査 ⑦ 肝機能検査 ⑧ 血中脂質検査 ⑨ 血糖検査 ⑩ 心電図検査	
--	--	--

#### (4) 特殊健康診断

##### 1) 健診概要

目的： 特定の有害業務に従事する就業者を対象とした健康管理

対象： 有害業務従事者

##### 2) 実施状況

8,217人の健診を実施し、前年度に比べ4,065人(33.1%)の減少であった。

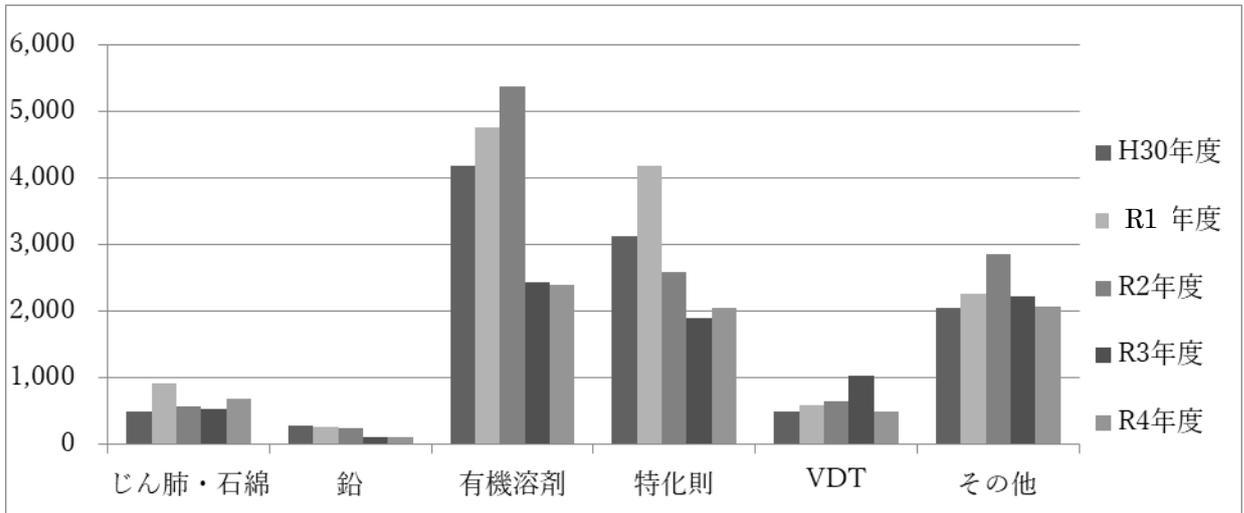
##### ① 項目別実施状況

じん肺・石綿健診は527人、鉛健診は107人、有機溶剤健診は2,433人  
 特定化学物質健診は1,888人、VDT健診は1,040人、その他健診は2,222人であった。

##### ② 項目別受診者数の年次推移

(人)

区分	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度
じん肺・石綿	501	919	566	527	689
鉛	277	254	235	107	114
有機溶剤	4,179	4,754	5,377	2,433	2,399
特化則	3,122	4,179	2,591	1,888	2,049
VDT	495	579	649	1,040	494
その他	2,055	2,266	2,864	2,222	2,065
計	10,629	12,951	12,282	8,217	7,810



### 3) 健診方法

労働安全衛生法及びじん肺法で定める検査項目を基本としている。

## (5) 胸部X線検診（結核検診・肺がん検診）

### 1) 検診概要

目的：「結核」の早期発見、まん延防止及び「肺がん」の早期発見、死亡率低下  
 対象：「結核」は65歳以上の住民、労働安全衛生法による定期健診対象者及び  
 感染症法による対象者、「肺がん」は40歳以上の住民及び事業所就業者

### 2) 実施状況

地域では33,699人の検診を実施し、前年度に比べ20人(0.01%)の減少であった。  
 職域及び各種学校では56,400人の検診を実施し、前年度に比べ2,416人(4.1%)  
 の減少であった。

全体では前年度に比べ2,436人(2.6%)の減少であった。

#### ① 受診者数の年次推移

(人)

区分	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度
地域	49,473	48,229	26,865	33,719	33,699
職域	40,749	39,281	59,820	58,816	56,400
各種学校	18,736	16,335			
計	108,958	103,845	86,685	92,535	90,099

\*R2より職域と各種学校（高校生含む）を統合

## ② 年齢階層別実施状況表

別表

### ③ 要精検率（各種学校の高校生除く）

要精検者数は1,295人で、要精検率は1.5%であった。

### ④ 精検受診率（各種学校の高校生除く）

精検受診者数は824人で、精検受診率は63.6%であった。

### ⑤ がん発見率（各種学校の高校生除く）

発見された人数は20人で、発見率は0.02%であった。

区分	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度
がん発見者数	17	16	36	19	20
がん発見率	0.02%	0.02%	0.04%	0.02%	0.02%

## 3) 検診方法

### ① 検診項目

結核検診：胸部X線デジタル撮影

肺がん検診：問診、胸部X線デジタル読影、喀痰細胞診（問診で喫煙指数600以上の者または6ヶ月以内に血痰のあった者、いずれかに該当する者）

### ② 判定方法

胸部疾患専門医師2名による二重読影を行う。  
肺がん検診では読影結果に基づき比較読影を実施する。

### ③ 判定区分

異常なし：所見なし（有所見を含む）  
経過観察：精密検査は不要だが経過を観察する  
要精検：病変の発見及びその疑いがある

別表1 胸部X線検診年齢階層別実施状況（地域）

区分	年齢	受診者数	要精検者数	精検受診者数	精検結果内訳										
					肺がん	肺がん疑い	悪性腫瘍	肺結核要治療	肺結核要観察	肺結核治療	他呼吸器	循環器	その他	異常なし	
男	～39	152													
	40～44	172													
	45～49	214	1	1									1		
	50～54	266	3	3									2	1	
	55～59	239	6	5	1						1		1	2	
	60～64	489	10	6							1		4	1	
	65～69	1,395	34	20	1	1			2		4		9	3	
	70～74	2,935	51	37	1						1		26	9	
	75～79	3,027	84	54	2	2					3		37	10	
	80～	3,388	120	84	3	5			1		6		57	13	
	不明														
	計	12,277	309	210	8	8	0	0	3	0	16	0	137	39	
女	～39	137													
	40～44	363	1												
	45～49	508	7	5	1								3	1	
	50～54	699	7	4									4		
	55～59	881	14	11							1		4	6	
	60～64	1,563	25	19		1							13	5	
	65～69	3,043	49	38		1							23	14	
	70～74	5,404	93	70	3	4		1	2		1		46	13	
	75～79	4,744	98	78	1	5		1			2		55	14	
	80～	4,080	112	83	2	4			2		3		54	18	
	不明														
	計	21,422	406	308	7	15	0	2	4	0	7	0	202	71	
合計	33,699	715	518	15	23	0	2	7	0	23	0	339	110		

別表2 胸部X線検診年齢階層別実施状況（職域及び各種学校）

区分	年齢	受診者数	要精検者数	精検受診者数	精検結果内訳									
					肺がん	肺がん疑い	悪性腫瘍	肺結核要治療	肺結核要観察	肺結核治療	他呼吸器	循環器	その他	異常なし
男	～39	14,034	41	22							2		12	8
	40～44	1,828	14	6									4	2
	45～49	2,168	15	6				1					5	
	50～54	2,197	17	5				1			1		1	2
	55～59	1,656	24	14	1								6	7
	60～64	1,500	25	13									8	5
	65～69	1,032	29	13					1				10	2
	70～74	650	38	20							1		14	5
	75～79	301	16	5							1		4	

	80～	495	47	18		3						15			
	不明														
	計	25,861	266	122	1	3	0	2	1	0	5	0	79	31	
女	～39	14,396	29	21					2		2		9	8	
	40～44	1,380	7	5									2	3	
	45～49	1,812	13	8	1								5	2	
	50～54	1,757	11	7					1				6		
	55～59	1,419	20	14									10	4	
	60～64	1,216	26	19									12	7	
	65～69	695	21	15		1					1		11	2	
	70～74	364	9	6									3	3	
	75～79	248	11	4									4		
	80～	2,203	167	85	3	4			2		1		66	8	
	不明														
	計	25,490	314	184	4	5	0	0	5	0	4	0	128	37	
合計	51,351	580	306	5	8	0	2	6	0	9	0	207	68		

別表3 胸部X線検診実施状況（高校生）

区分	受診者数	一次検査結果内訳		
		異常なし	有所見者	要精検
高校生	5,049	5,011	32	6

別表4 喀痰細胞診年齢階層別実施状況（地域）

区分	年齢	受診者数	一次検査結果内訳				
			検体不適	異常なし	観察	悪性腫瘍 細胞疑い	悪性腫瘍 細胞あり
男	～39	0					
	40～44	2		2			
	45～49	6		6			
	50～54	12		12			
	55～59	15		15			
	60～64	30		30			
	65～69	80		78	2		
	70～74	176	3	173			
	75～79	144		144			
	80～	160		158	1	1	
	不明	0					
計	625	3	618	3	1	0	
女	～39	0					
	40～44	1		1			
	45～49	1		1			
	50～54	3		3			
	55～59	6		6			

	60～64	8		8			
	65～69	9		9			
	70～74	14		14			
	75～79	25		25			
	80～	20		20			
	不明	0					
	計	87	0	87	0	0	0
合計		712	3	705	3	1	0

別表5 喀痰細胞診年齢階層別実施状況（職域）

区分	年齢	受診者数	一次検査結果内訳				
			検体不適	異常なし	観察	悪性腫瘍 細胞疑い	悪性腫瘍 細胞あり
男	～39	3		3			
	40～44	1		1			
	45～49	4		4			
	50～54	14	2	12			
	55～59	12		12			
	60～64	16		16			
	65～69	10		9	1		
	70～74	9	1	8			
	75～79	4		4			
	80～	3		3			
	不明	0					
	計	76	3	72	1	0	0
女	～39	0					
	40～44	1		1			
	45～49	0					
	50～54	0					
	55～59	0					
	60～64	0					
	65～69	0					
	70～74	0					
	75～79	0					
	80～	0					
	不明	0					
	計	1	0	1	0	0	0
合計		77	3	73	1	0	0

## (6) 胃がん検診

### 1) 検診概要

目的：胃がんの早期発見

対象：原則として40歳以上の地域住民及び事業所就業者

### 2) 実施状況

地域では4,602人の検診を実施し、前年度に比べ648人(16.4%)の増加であった。  
職域では5,190人の検診を実施し、前年度に比べ855人(14.1%)の減少であった。  
全体では前年度に比べ207人(2.1%)の減少であった。

#### ① 受診者数の年次推移

(人)

区分	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度
地域	8,834	7,733	3,767	3,954	4,602
職域	6,401	6,084	5,659	6,045	5,190
計	15,235	13,817	9,426	9,999	9,792

#### ② 年齢階層別実施状況表

別表

#### ③ 要精検率

要精検者数は429人で、要精検率は4.4%であった。

#### ④ 精検受診率

精検受診者数は288人で、精検受診率は67.1%であった。

#### ⑤ がん発見率

発見された人数は9人で、発見率は0.09%であった。

内訳は男性5人、女性4人であった。

区分	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度
がん発見者数	13	17	8	7	9
がん発見率	0.09%	0.12%	0.08%	0.07%	0.09%

### 3) 検診方法

#### ① 検診項目

問診、胃部X線検査（日本消化器集団検診学会デジタル8枚撮影法）

#### ② 判定方法

専門医師による二重読影（ダブルチェック）

#### ③ 判定区分

異常なし： 所見なし（放置可を含む）

経過観察： 精密検査は不要だが経過を観察する

要 精 検： 疑わしい所見がみられるため精密検査の必要がある

別表1 胃がん検診年齢階層別実施状況（地域）

区 分	年齢	受診者数	要精検 者数	精検 受診 者数	精検結果内訳												
					異常なし	胃がん	がん疑い	その他の悪 性腫瘍	胃癌	胃 ポリープ	十二指腸潰 瘍	慢性胃炎	十二指腸 潰瘍	十二指腸 指状腫瘍	その他 疾病	不明	
男	～39																
	40～44	34	1	1							1						
	45～49	49	1	1							1						
	50～54	80															
	55～59	85	5	4							2				2		
	60～64	137	5	3							3						
	65～69	350	30	23	4				1	7		10				1	
	70～74	581	43	31	1	1			1	2	3	20				3	
	75～79	407	23	18		3			1	3	1	9				1	
	80～	321	26	20	1					4	1	9			1	4	
	計	2,044	134	101	6	4	0	0	3	16	5	55	0	1	11	0	
女	～39																
	40～44	73	2	2						1		1					
	45～49	111	3	2						1		1					
	50～54	159	6	3							1	2					
	55～59	168	2	2								2					
	60～64	278	8	5								5					
	65～69	450	20	18	2	1				1		9				5	
	70～74	635	20	16		1				5		7		1		2	
	75～79	424	21	16	1	1		1		5	1	7					
	80～	260	12	9	1					1	1	2	1			3	
	計	2,558	94	73	4	3	0	1	0	14	3	36	1	1	10	0	
合計	4,602	228	174	10	7	0	1	3	30	8	91	1	2	21	0		

別表2 胃がん検診年齢階層別実施状況（職域）

区分	年齢	受診者数	要精検者数	精検受診者数	精検結果内訳											
					異常なし	胃がん	がん疑い	その他の悪性腫瘍	胃癌	胃ポリープ	腸胃腫瘍	慢性胃炎	十二指腸潰瘍	十二指腸指腸腫瘍	その他疾病	不明
男	～39	578	19	16	2					3		9			2	
	40～44	524	24	9	1							6	1		1	
	45～49	639	17	7	1						1	3			2	
	50～54	713	29	14	2						1	10			1	
	55～59	523	25	13	4					3	2	2			2	
	60～64	423	24	13						1	1	8			3	
	65～69	187	12	9		1				1		6			1	
	70～74	67	9	7						2	2	3				
	75～79	8														
	80～	2	1	1	1											
	不明															
	計	3,664	160	89	11	1	0	0	0	10	7	47	1	0	12	0
女	～39	215	4	3	3											
	40～44	203	3	2								2				
	45～49	303	10	4					1		3					
	50～54	294	8	7	2				2	1	1				1	
	55～59	206	2	1							1					
	60～64	203	9	6		1			2		3					
	65～69	80	3	1					1							
	70～74	18	2	1											1	
	75～79	4														
	80～															
	不明															
	計	1,526	41	25	5	1	0	0	0	6	1	10	0	0	2	0
合計	5,190	201	114	16	2	0	0	0	16	8	57	1	0	14	0	

別表3 胃がん検診年齢階層別実施状況（合計）

区分	年齢	受診者数	要精検者数	精検受診者数	精検結果内訳											
					異常なし	胃がん	がん疑い	その他の悪性腫瘍	胃癌	胃ポリープ	腸胃腫瘍	慢性胃炎	十二指腸潰瘍	十二指腸指腸腫瘍	その他疾病	不明
男	～39	578	19	16	2	0	0	0	0	3	0	9	0	0	2	0
	40～44	538	25	10	1	0	0	0	0	0	0	7	1	0	1	0
	45～49	688	18	8	1	0	0	0	0	0	1	4	0	0	2	0
	50～54	793	29	14	2	0	0	0	0	0	1	10	0	0	1	0
	55～59	608	30	17	4	0	0	0	0	3	2	4	0	0	4	0
	60～64	560	29	16	0	0	0	0	0	1	1	11	0	0	3	0
	65～69	537	42	32	4	1	0	0	1	8	0	16	0	0	2	0
	70～74	648	52	38	1	1	0	0	1	4	5	23	0	0	3	0
	75～79	415	23	18	0	3	0	0	1	3	1	9	0	0	1	0

	80～	323	27	21	2	0	0	0	0	4	1	9	0	1	4	0
	不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	5,708	294	190	17	5	0	0	3	26	12	102	1	1	23	0
女	～39	215	4	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	40～44	276	5	4	0	0	0	0	0	1	0	3	0	0	0	0
	45～49	414	13	6	0	0	0	0	0	2	0	4	0	0	0	0
	50～54	453	14	10	2	0	0	0	0	2	2	3	0	0	1	0
	55～59	374	4	3	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0
	60～64	481	17	11	0	1	0	0	0	2	0	8	0	0	0	0
	65～69	530	23	19	2	1	0	0	0	2	0	9	0	0	5	0
	70～74	653	22	17	0	1	0	0	0	5	0	7	0	1	3	0
	75～79	428	21	16	1	1	0	1	0	5	1	7	0	0	0	0
	80～	260	12	9	1	0	0	0	0	1	1	2	1	0	3	0
	不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	4,084	135	98	9	4	0	1	0	20	4	46	1	1	12	0
合計	9,792	429	288	26	9	0	1	3	46	16	148	2	2	35	0	

## (7) 子宮がん検診

### 1) 検診概要

目的：子宮頸がんの早期発見

対象：原則として20歳以上の女性で地域住民及び事業所就業者

### 2) 実施状況

地域では11,986人の検診を実施し、前年度に比べ960人(7.6%)の減少であった。

職域では273人の検診を実施し、前年度に比べ1人(0.4%)の減少であった。  
全体では前年度に比べ961人(7.4%)の減少であった。

#### ① 受診者数の年次推移

(人)

区分	H30年度	H31年度	R2年度	R3年度	R4年度
地域	19,588	19,399	12,110	12,673	11,713
職域	376	380	324	274	273
計	19,964	19,779	12,434	12,947	11,986

#### ② 年齢階層別実施状況表

別表

#### ③ 要精検率

要精検者数は69人で、要精検率は0.6%であった。

#### ④ 精検受診率

精検受診者数は56人で、精検受診率は81.2%であった。

#### ⑤ がん発見率

発見された人数は2人で、発見率は0.02%であった。

区分	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度
がん発見者数	1	4	0	0	2
がん発見率	0.01%	0.02%	0.00%	0.00%	0.02%

### 3) 検診方法

#### ① 検診項目

問診（既往歴、家族歴等）、医師による視診・内診及び子宮頸部の細胞採取

#### ② 判定方法

細胞診の判定は日本臨床細胞学会認定の細胞検査士がスクリーニングして、ASC-US以上のものについて細胞診専門医が判定を行う。

#### ③ 判定区分

細胞診判定	結果	推定される病理診断	従来のクラス分類
NILM	陰性	非腫瘍性所見 炎症	I、II
ASC-US	意義不明な 異型扁平上皮細胞	軽度扁平上皮内病変疑い	II-IIIa
ASC-H	HSILを除外できない 異型扁平上皮細胞	高度扁平上皮内病変疑い	IIIa、IIIb
LSIL	軽度扁平 上皮内病変	HPV感染 軽度異形成	IIIa
HSIL	高度扁平上皮内病変	中等度異形成	IIIa
		高度異形成	IIIb
		上皮内癌	IV
SCC	扁平上皮癌	扁平上皮癌	V
AGC	異型腺細胞	腺異型または 腺癌疑い	III
AIS	上皮内腺癌	上皮内腺癌	IV
Adenoca.	腺癌	腺癌	V
other malig.	その他の悪性腫瘍	その他の悪性腫瘍	V

別表1 子宮頸がん検診年齢階層別実施状況（地域）

年齢	受診者数	要精検者数	精検 受診者数	精検結果内訳			
				異常なし	頸部がん	がん疑い	その他疾病
～19							
20～24	82	2	1				
25～29	117	4	2			1	
30～34	242	5	5			1	
35～39	396	7	6		1	3	
40～44	647	9	8			3	
45～49	870	11	10			3	
50～54	871	9	9			2	
55～59	868	4	3			3	
60～64	1,253	2	1				
65～69	1,754	5	4			1	
70～74	2,329	2	2			1	
75～79	1,513	3	2				
80～	771	1					
計	11,713	64	53	0	1	18	0

別表2 子宮頸がん検診年齢階層別実施状況（職域）

年齢	受診者数	要精検者数	精検 受診者数	精検結果内訳			
				異常なし	頸部がん	がん疑い	その他疾病
～19							
20～24	5	1	1	1			
25～29	12						
30～34	18	1	1		1		
35～39	21						
40～44	39	1	1			1	
45～49	32	1					
50～54	42						
55～59	65	1					
60～64	32						
65～69	5						
70～74	2						
75～79							
80～							
計	273	5	3	1	1	1	0

別表3 子宮頸がん検診年齢階層別実施状況（合計）

年齢	受診者数	要精検者数	精検 受診者数	精検結果内訳			
				異常なし	頸部がん	がん疑い	その他疾病
～19	0	0	0	0	0	0	0
20～24	87	3	2	1	0	0	0

25～29	129	4	2	0	0	1	0
30～34	260	6	6	0	1	1	0
35～39	417	7	6	0	1	3	0
40～44	686	10	9	0	0	4	0
45～49	902	12	10	0	0	3	0
50～54	913	9	9	0	0	2	0
55～59	933	5	3	0	0	3	0
60～64	1,285	2	1	0	0	0	0
65～69	1,759	5	4	0	0	1	0
70～74	2,331	2	2	0	0	1	0
75～79	1,513	3	2	0	0	0	0
80～	771	1	0	0	0	0	0
計	11,986	69	56	1	2	19	0

## (8) 乳がん検診

### 1) 検診概要

目的：乳がんの早期発見

対象：岡山県の指針で30歳代は視触診単独検診を毎年実施、40歳以上はマンモグラフィ併用検診を毎年実施

原則、地域住民及び事業所就業者

### 2) 実施状況

地域では12,116人の検診を実施し、前年度に比べ975人(8.8%)の増加であった。  
職域では299人の検診を実施し、前年度に比べ14人(4.5%)の減少であった。  
全体では前年度に比べ961人(8.4%)の増加であった。

#### ① 受診者数の年次推移

(人)

区分	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度
地域	17,171	17,047	11,026	11,141	12,116
職域	479	394	329	313	299
計	17,650	17,441	11,355	11,454	12,415

#### ② 年齢階層別実施状況表

別表

### ③ 要精検率

要精検者数は409人で、要精検率は3.3%であった。

### ④ 精検受診率

精検受診者数は368人で、精検受診率は90.0%であった。

### ⑤ がん発見率

発見された人数は48人で、発見率は0.39%であった。

区分	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度
がん発見者数	30	35	33	32	48
がん発見率	0.17%	0.20%	0.29%	0.28%	0.39%

## 3) 検診方法

### ① 検診項目

- ・問診、視触診（専門医師による立位・座位・仰臥位・視触診法により行う）
- ・問診、視触診、マンモグラフィ（40歳代のみ、内外斜位一方向と頭尾方向を加えた2方向）

### ② 判定方法

視触診：専門医師による

マンモグラフィ：マンモグラフィ精度管理中央委員会の認定読影医師による二重読影

### ③ 判定区分

#### ・視触診

異常なし：今回の検診で異常は認められない者

経過観察：精密検査は不要だが経過を観察する

要精検：今回の検診で精密検査の必要があると診断された者

#### ・マンモ併用

異常なし：今回の検診で異常は認められない者（有所見を含む）

要精検：疑わしい所見が見られるので精密検査が必要と診断された者

別表1 乳がん年齢階層別実施状況（地域）

年齢	受診者数	要精検者数	精検受診者数	精検結果内訳						
				異常なし	乳がん	乳がん疑い	乳腺症	線維嚢腫	その他	不明
～29										
30～34										
35～39										
40～44	808	41	36	16	3		5	5	7	
45～49	1,069	57	56	17	5		11	9	14	
50～54	1,087	48	44	16	4		10	3	11	
55～59	998	35	31	11	4		7	2	7	
60～64	1,359	34	28	14	4		5	2	3	
65～69	1,819	51	48	24	9		6	2	7	
70～74	2,488	66	61	25	7		10	2	17	
75～79	1,627	42	36	12	9		4	3	8	
80～	911	18	18	10	3			2	3	
不明										
計	12,166	392	358	145	48	0	58	30	77	0

別表2 乳がん年齢階層別実施状況（職域）

年齢	受診者数	要精検者数	精検受診者数	精検結果内訳						
				異常なし	乳がん	乳がん疑い	乳腺症	線維嚢腫	その他	不明
～29	6									
30～34	7	1								
35～39	13	3	2	1				1		
40～44	38	2	1						1	
45～49	44	5	3				1	1	1	
50～54	59	2	2						2	
55～59	60	1	1	1						
60～64	32	2	1	1						
65～69	16									
70～74	13	1								
75～79	9									
80～	2									
不明										
計	299	17	10	3	0	0	1	2	4	0

別表3 乳がん年齢階層別実施状況（合計）

年齢	受診者数	要精検者数	精検受診者数	精検結果内訳						
				異常なし	乳がん	乳がん疑い	乳腺症	線維嚢腫	その他	不明
～29	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0

30～34	7	1	0	0	0	0	0	0	0	0
35～39	13	3	2	1	0	0	0	1	0	0
40～44	846	43	37	16	3	0	5	5	8	0
45～49	1,113	62	59	17	5	0	12	10	15	0
50～54	1,146	50	46	16	4	0	10	3	13	0
55～59	1,058	36	32	12	4	0	7	2	7	0
60～64	1,391	36	29	15	4	0	5	2	3	0
65～69	1,835	51	48	24	9	0	6	2	7	0
70～74	2,501	67	61	25	7	0	10	2	17	0
75～79	1,636	42	36	12	9	0	4	3	8	0
80～	913	18	18	10	3	0	0	2	3	0
不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	12,465	409	368	148	48	0	59	32	81	0

## (9) 大腸がん検診

### 1) 検診概要

目的：大腸がんの早期発見

対象：原則として40歳以上の地域住民及び事業所就業者

### 2) 実施状況

地域では12,654人の検診を実施し、前年度に比べ73人(0.6%)の増加であった。  
職域では8,668人の検診を実施し、前年度に比べ484人(5.3%)の減少であった。

全体では前年度に比べ411人(1.9%)の減少であった。

#### ① 受診者数の年次推移

(人)

区分	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度
地域	18,304	18,101	12,292	12,581	12,654
職域	7,385	7,504	8,214	9,152	8,668
計	25,689	25,605	20,506	21,733	21,322

#### ② 年齢階層別実施状況表

別表

#### ③ 要精検率

要精検者数は1,149人で、要精検率は5.4%であった。

④ 精検受診率

精検受診者数は640人で、精検受診率は55.7%であった。

⑤ がん発見率

発見された人数は14人で、0.07%であった。

区分	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度
がん発見者数	27	34	20	22	14
がん発見率	0.11%	0.13%	0.10%	0.10%	0.07%

3) 検診方法

① 検診項目

問診、検査（免疫学的便ヘモグロビン検査、便採取は2日法）

② 判定区分

異常なし：免疫学的便潜血反応検査において2日とも陰性

要精検：免疫学的便潜血反応検査において1日あるいは2日とも陽性

別表1 大腸がん検診年齢階層別実施状況（地域）

区分	年齢	受診者数	要精検者数	精検受診者数	精検結果内訳								
					異常なし	大腸がん	がん疑い	その他の悪性腫瘍	大腸ポリープ	憩室	痔	その他疾病	不明
男	～39	1											
	40～44	99	3	3					1		1		
	45～49	144	7	4	2				1	1			
	50～54	166	7	5	1				3	1			
	55～59	144	9	7	1				5			1	
	60～64	253	14	9	1	2			6				
	65～69	732	42	18		2			13	2	1		
	70～74	1,193	91	66	5	2			49	3	6	1	
	75～79	949	76	58	9	2			37	9	1		
	80～	1,014	91	66	11	1	1	1	40	5	3	4	
	計	4,695	340	236	30	9	1	1	155	21	12	7	0
女	～39	1											
	40～44	321	12	9	3				3		3		

	45～49	443	26	8	2			3		2	1		
	50～54	456	17	10	5			1		2	2		
	55～59	500	29	18	7			8		1	2		
	60～64	764	25	17	3			8	5		1		
	65～69	1,286	54	36	10		1	16	1	4	4		
	70～74	1,776	72	57	6	1	1	33	8	6	2		
	75～79	1,316	63	49	8			27	6	5	3		
	80～	1,096	86	53	14	1		23	6	8	1		
	計	7,959	384	257	58	2	0	2	122	26	31	16	0
合計		12,654	724	493	88	11	1	3	277	47	43	23	0

別表2 大腸がん検診年齢階層別実施状況（職域）

区分	年齢	受診者数	要精 検 者数	精検 受診 者数	精検結果内訳								
					異常なし	大腸がん	がん疑い	その他の 悪性腫瘍	大腸 ポリープ	憩室	痔	その他 疾病	不明
男	～39	752	34	11	3				4		3	1	
	40～44	718	24	6	3				1	1		1	
	45～49	901	38	14	6	1			4		3		
	50～54	940	28	10	1				6	2	1		
	55～59	712	45	11	2				8	1			
	60～64	614	33	19	2				13	1	1	2	
	65～69	349	20	3					3				
	70～74	149	17	3					3				
	75～79	53	7	1					1				
	80～	18	1										
	不明												
計		5,206	247	78	17	1	0	0	43	5	8	4	0
女	～39	484	21	3					1	1	1		
	40～44	405	23	8	6				2				
	45～49	578	33	15	8				5		1	1	
	50～54	581	26	14	6	1			6		1		
	55～59	474	17	12	2				7		3		
	60～64	485	27	8	2				5	1			
	65～69	288	18	6	2	1			1	2			
	70～74	116	6	2					2				
	75～79	48	7	1					1				
	80～	3											
	不明												
計		3,462	178	69	26	2	0	0	30	4	6	1	0
合計		8,668	425	147	43	3	0	0	73	9	14	5	0

別表3 大腸がん検診年齢階層別実施状況(合計)

区分	年齢	受診者数	要精検者数	精検受診者数	精検結果内訳								
					異常なし	大腸がん	がん疑い	その他の悪性腫瘍	大腸ポリープ	憩室	痔	その他疾病	不明
男	～39	753	34	11	3	0	0	0	4	0	3	1	0
	40～44	817	27	9	3	0	0	0	2	1	1	2	0
	45～49	1,045	45	18	8	1	0	0	5	1	3	0	0
	50～54	1,106	35	15	2	0	0	0	9	3	1	0	0
	55～59	856	54	18	3	0	0	0	13	1	0	1	0
	60～64	867	47	28	3	2	0	0	19	1	1	2	0
	65～69	1,081	62	21	0	2	0	0	16	2	1	0	0
	70～74	1,342	108	69	5	2	0	0	52	3	6	1	0
	75～79	1,002	83	59	9	2	0	0	38	9	1	0	0
	80～	1,032	92	66	11	1	1	1	40	5	3	4	0
	不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	9,901	587	314	47	10	1	1	198	26	20	11	0
女	～39	485	21	3	0	0	0	0	1	1	1	0	0
	40～44	726	35	17	9	0	0	0	5	0	3	0	0
	45～49	1,021	59	23	10	0	0	0	8	0	3	2	0
	50～54	1,037	43	24	11	1	0	0	7	0	3	2	0
	55～59	974	46	30	9	0	0	0	15	0	4	2	0
	60～64	1,249	52	25	5	0	0	0	13	6	0	1	0
	65～69	1,574	72	42	12	1	0	1	17	3	4	4	0
	70～74	1,892	78	59	6	1	0	1	35	8	6	2	0
	75～79	1,364	70	50	8	0	0	0	28	6	5	3	0
	80～	1,099	86	53	14	1	0	0	23	6	8	1	0
	不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	11,421	562	326	84	4	0	2	152	30	37	17	0
合計	21,322	1,149	640	131	14	1	3	350	56	57	28	0	

## (10) 前立腺がん検診

### 1) 検診概要

目的：前立腺がんの早期発見

対象：原則として40歳以上の地域住民及び事業所就業者

### 2) 実施状況

地域では3,126人の検診を実施し、前年度に比べ156人(5.3%)の増加であった。職域では1,331人の検診を実施し、前年度に比べ80人(6.4%)の増加であった。

全体では前年度に比べ 236 人 (5.6%) の増加であった。

① 受診者数の年次推移

(人)

区分	H30 年度	R1 年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度
地域	5,201	5,040	2,747	2,970	3,126
職域	716	639	1,051	1,251	1,331
計	5,917	5,679	3,798	4,221	4,457

② 年齢階層別実施状況表

別表

③ 要精検率

要精検者数は 237 人で、要精検率は 5.3% であった。

④ 検受診率

精検受診者数は 111 人で、精検受診率は 46.8% であった。

⑤ がん発見率

発見された人数は 9 人で、発見率は 0.20% であった。

区分	H30 年度	R1 年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度
がん発見者数	25	17	16	16	9
がん発見率	0.42 %	0.30 %	0.42 %	0.38 %	0.20 %

3) 検診方法

① 検診項目： 問診、前立腺特異抗原検査 (CLEIA 法)

② 判定区分： PSA の基準値を 4.0ng/ml とし、4.0 以下を異常なし、4.1 以上を要精検と判定

別表 1 前立腺がん検診年齢階層別実施状況 (地域)

年齢	受診者数	要精検者数	精検受診者数	精検結果内訳							
				異常なし	がん	がん疑い	その他の悪性腫瘍	肥大	前立腺炎	その他	不明
～39	1										
40～44	37										
45～49	65	1	1			1					

50～54	110	1	1					1			
55～59	111	3	2			1		1			
60～64	178	10	5	1		2		2			
65～69	564	26	14	2	3	2		6			1
70～74	892	62	28	3	1	5		16			2
75～79	636	51	31	2	2	10		12		1	4
80～	532	45	29	5	3	7		13			1
計	3,126	199	111	13	9	28	0	51	0	1	8

別表2 前立腺がん検診年齢階層別実施状況（職域）

年齢	受診者数	要精検者数	精検受診者数	精検結果内訳							
				異常なし	がん	がん疑い	その他の悪性腫瘍	肥大	前立腺炎	その他	不明
～39	107	1									
40～44	150	1									
45～49	189	3									
50～54	297	4									
55～59	249	9									
60～64	205	9									
65～69	88	6									
70～74	32	2									
75～79	10	2									
80～	4	1									
計	1,331	38	0	0	0	0	0	0	0	0	0

別表3 前立腺がん検診年齢階層別実施状況（合計）

年齢	受診者数	要精検者数	精検受診者数	精検結果内訳							
				異常なし	がん	がん疑い	その他の悪性腫瘍	肥大	前立腺炎	その他	不明
～39	108	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
40～44	187	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
45～49	254	4	1	0	0	1	0	0	0	0	0
50～54	407	5	1	0	0	0	0	1	0	0	0
55～59	360	12	2	0	0	1	0	1	0	0	0
60～64	383	19	5	1	0	2	0	2	0	0	0
65～69	652	32	14	2	3	2	0	6	0	0	1
70～74	924	64	28	3	1	5	0	16	0	0	2
75～79	646	53	31	2	2	10	0	12	0	1	4
80～	536	46	29	5	3	7	0	13	0	0	1
計	4,457	237	111	13	9	28	0	51	0	1	8

## (1 1) 骨粗鬆症検診

### 1) 検診概要

目的： 骨粗鬆症の予防

対象： 地域住民、事業所就業者、学生

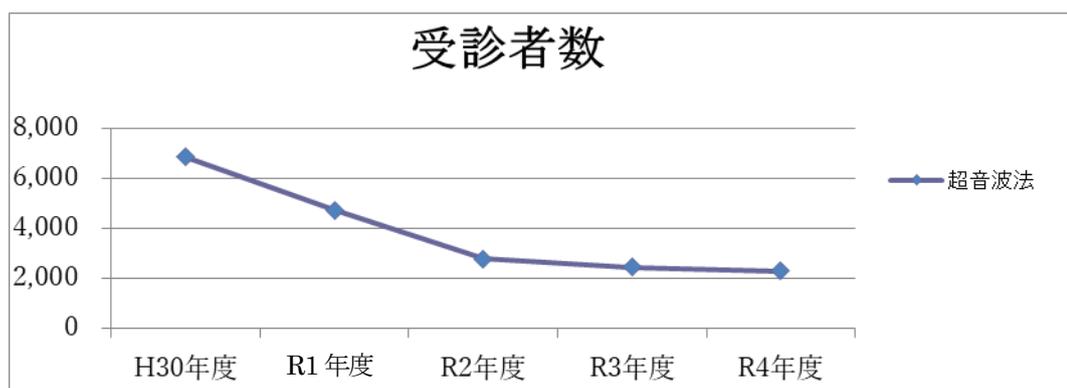
### 2) 実施状況

2, 291 人の検診を実施し、前年度に比べ 168 人 (6. 8%) の減少であった。

#### ① 受診者数の年次推移

(人)

区分	H30 年度	R1 年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度
超音波法	6, 871	4, 741	2, 794	2, 459	2, 291



### 3) 検診方法

#### ① 検診項目

- ・問診
- ・超音波法： 足のかかるとに超音波をあてて、音響的骨評価値により骨密度を測定

#### ② 判定方法

性別、年齢別に下記判定基準値 (YAM 値) と照合し医師による最終判定を行う

#### 4) 判定基準値 (成人)

性別	年齢	YAM 値に対する割合		
		① 異常なし	② 要指導	③ 要精検
女性	59歳以下	90%以上	90%未満 80%以上	80%未満
	60歳以上	90%以上	90%未満 70%以上	70%未満
男性	全年齢	90%以上	90%未満 75%以上	75%未満

## (1 2) 学校保健検査

### 1. 尿検査

#### 1) 検査概要

目的： 腎臓病・糖尿病等早期発見

対象： 学校保健安全法に基づく幼児・児童・生徒等

#### 2) 実施状況

139,005 人の検査を実施し、前年度に比べ2,333 人（1.7%）の減少であった。

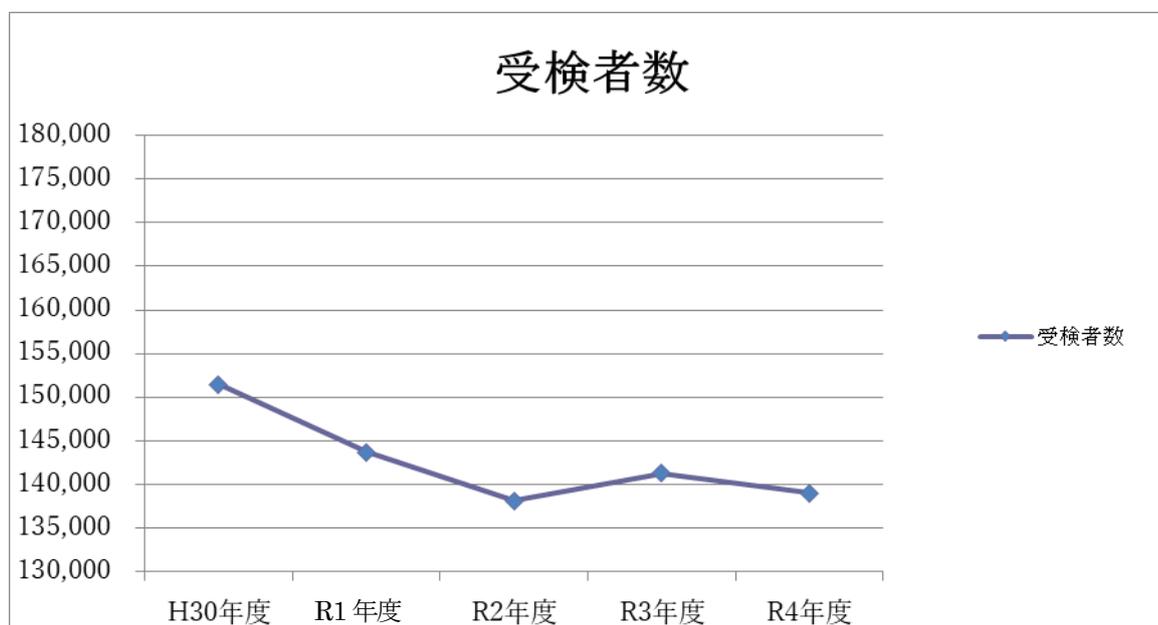
第1回検尿の陽性者は4,452 人で、陽性率は3.20%であった。

第2回検尿の陽性者は950 人で、陽性率は25.91%であった。

#### ① 受検者数の年次推移

(人)

区分	H30 年度	R1 年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度
受検者数	151,458	143,684	138,187	141,338	139,005



## ② 検査実績

対象	性別	第1回検尿						第2回検尿					
		受診者数	陽性者数	陽性率 (%)	項目別陽性者数			受診者数	陽性者数	陽性率 (%)	項目別陽性者数		
					糖	蛋白	潜血				糖	蛋白	潜血
幼稚園 保育園	男	6,981	51	0.73	9	21	21	33	11	33.33	0	6	7
	女	6,580	94	1.43	5	45	49	63	24	38.10	0	14	22
	計	13,561	145	1.07	14	66	70	96	35	36.46	0	20	29
小学校	男	37,107	360	0.97	38	251	84	315	106	33.65	13	67	46
	女	35,370	932	2.64	33	535	397	786	211	26.84	9	148	111
	計	72,477	1,292	1.78	71	786	481	1,101	317	28.79	22	215	157
中学校	男	18,360	1,032	5.62	47	920	87	923	238	25.79	8	206	45
	女	17,224	1,232	7.15	42	639	627	1,010	226	22.38	12	186	83
	計	35,584	2,264	6.36	89	1,559	714	1,933	464	24.00	20	392	128
高等学 校	男	6,328	285	4.50	36	243	15	223	52	23.32	5	45	6
	女	5,693	275	4.83	20	153	117	203	42	20.69	5	34	14
	計	12,021	560	4.66	56	396	132	426	94	22.07	10	79	20
その他 の学校	男	1,272	35	2.75	15	19	3	13	5	38.46	4	1	0
	女	2,843	62	2.18	6	38	22	24	4	16.67	1	3	0
	計	4,115	97	2.36	21	57	25	37	9	24.32	5	4	0
特殊学 校	男	837	55	6.57	7	45	8	40	16	40.00	2	12	2
	女	410	39	9.51	3	30	13	34	15	44.12	1	14	3
	計	1,247	94	7.54	10	75	21	74	31	41.89	3	26	5
合計	男	70,885	1,818	2.56	152	1,499	218	1,547	428	27.67	32	337	106
	女	68,120	2,634	3.87	109	1,440	1,225	2,120	522	24.62	28	399	233
	計	139,005	4,452	3.20	261	2,939	1,443	3,667	950	25.91	60	736	339

### 3) 検査方法

第1回検尿：蛋白、潜血、糖を、尿自動分析装置（US3300）を用いて定性検査を実施する。  
蛋白（±）以上の尿に対しては、スルホサリチル酸法で確認する。

第2回検尿：第1回検尿の陽性者に対し第1回検尿と同様の検査項目・検査方法を行う。  
蛋白・潜血陽性者に対しては沈渣鏡検を行う。

## 2. 寄生虫検査

### 1) 検査概要

目的： 学校保健安全法に基づく寄生虫の保卵者の発見

対象： 幼児、児童、生徒等

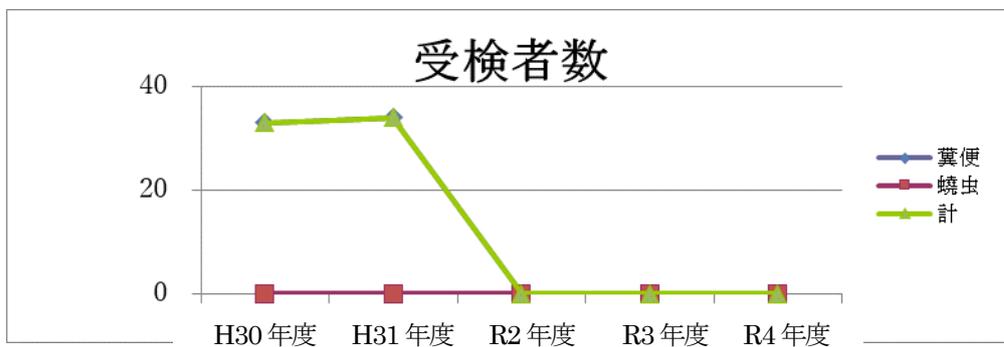
### 2) 実施状況

糞便検査は学校保健安全法の改正が施行され、寄生虫検査が必須項目から外れた影響のため、実施数は0人であった。

#### ① 受検者数の年次推移

(人)

区分	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度
糞便	33	34	0	0	0
蟻虫	0	0	0	0	0
計	33	34	0	0	0



#### ② 検査実績

区分	糞便			蟻虫		
	検査者数	保卵者数	陽性率(%)	検査者数	保卵者数	陽性率(%)
保育園 幼児クラブ	0	0	0.00	0	0	0.00
幼稚園	0	0	0.00	0	0	0.00
小学校	0	0	0.00	0	0	0.00
特殊学校	0	0	0.00	0	0	0.00
計	0	0	0.00	0	0	0.00

### 3) 検査方法

- ・セロファンテープ肛囲検査法（2回法）： 蟯虫卵検査方法はセロテープ法を用いた採卵を行う。  
夜間に肛門周囲に産卵された蟯虫卵を早朝セロテープの粘着部に付着させ、これを2日間（2回）  
行い、顕微鏡下で虫卵の有無を鏡検する。
- ・セロファン厚層塗抹法： 便をマッチの頭程度スライドに乗せ、顕微鏡下で虫卵の有無を鏡検する。

## 3. 貧血検査

### 1) 検査概要

目的： 貧血をはじめとする血液学的疾病の早期発見  
対象： 児童、生徒等

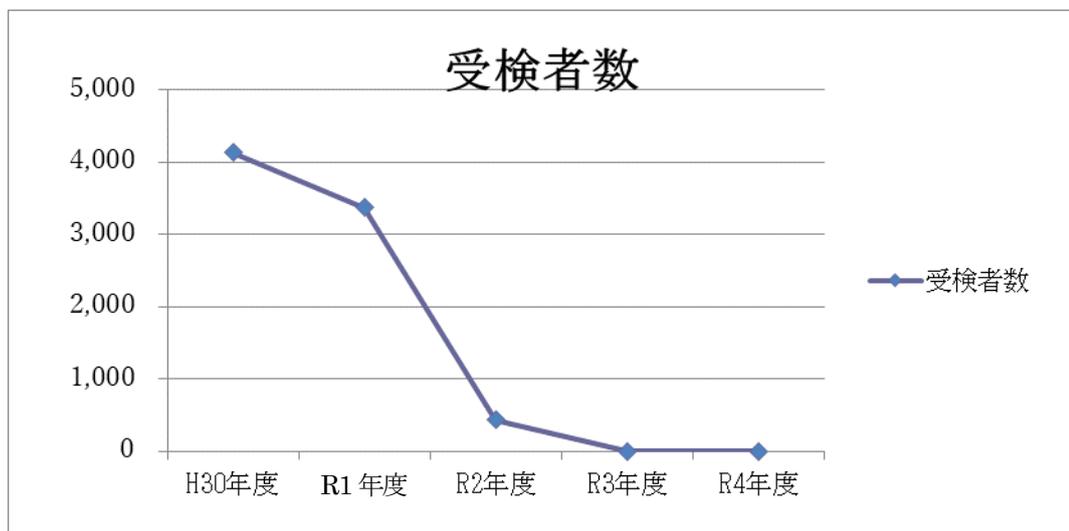
### 2) 実施状況

貧血検査は今年度より実施団体がなくなり、実施数は0人であった。

#### ① 受検者数の年次推移

(人)

区分	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度
受検者数	4,131	3,370	429	0	0



#### ② 検査実績

区分	性別	RBC (赤血球数)		Hb (ヘモグロビン)		Ht (ヘマトクリット)	
		受診数	基準外	受診数	基準外	受診数	基準外

中学校	男						
	女						
高校	男						
	女						
計		0	0	0	0	0	0

### 3) 検査方法

静脈より採血し、全自動血球計数装置 (XE2100) でRBC (赤血球数)、Hb (ヘモグロビン)、Ht (ヘマトクリット) の値を測定する。

## 4. 心臓検診

### 1) 検診概要

目的： 心疾患児の発見とともに重症度を判定し、突然死等の発生の予防

対象： 学校保健安全法に基づく、小学校1年生、小学校4年生、中学校1年生、高等学校1年生及びその他の学年

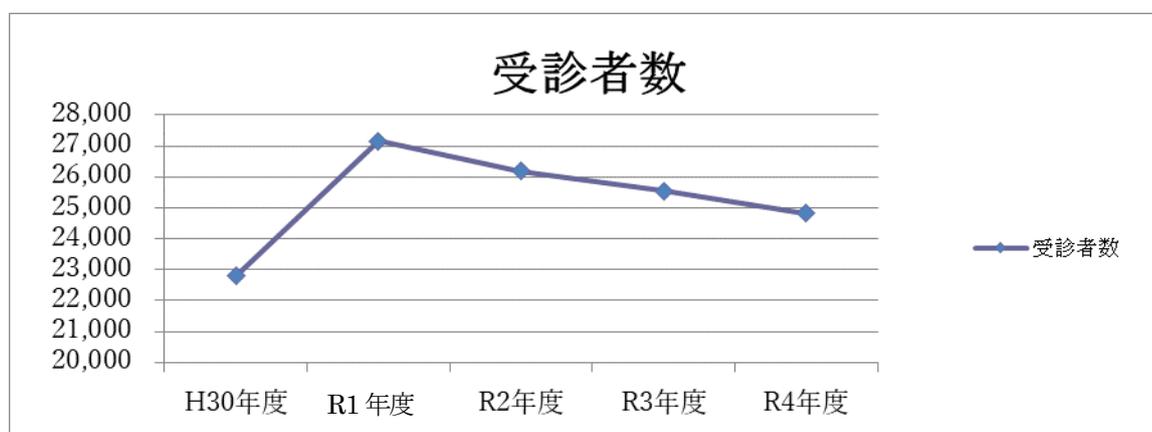
### 2) 実施状況

25,539人の検診を実施し、前年度に比べ642人(2.5%)の減少であった。  
 有所見率は2.84%であった(医師会審査判読分は除く)。

#### ① 受診者数の年次推移

(人)

区分	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度
受診者数	22,786	27,152	26,181	25,539	24,824



## ② 検診実績

区分	受診者数	判 定		
		正常	有所見	有所見率
小学校	8,017	7,703	314	3.92
中学校	8,293	7,728	565	6.81
高校	4,316	4,196	120	2.78
特殊学校	207	181	26	12.56
計	20,833	19,808	1,025	4.92

※ 医師会審査判読分（3,991人）を除く

## 3) 検診方法

心臓検診票と省略4誘導心電図+2点心音図を実施。一部の学校では標準12誘導心電図を実施。

県医師会解析センターで自動解析（一次判読）後、一次有所見者と検診票  
 有点者をふるい分けし、市医師会心臓判定委員会、財団専門医師等で二次判読  
 を実施し最終判定を行う。

## 5. 小児生活習慣病予防健診

### 1) 健診概要

目的：生活習慣病及び生活習慣病予備軍の発見

対象：小学校4年生と中学校1年生の生徒（1市のみ実施）

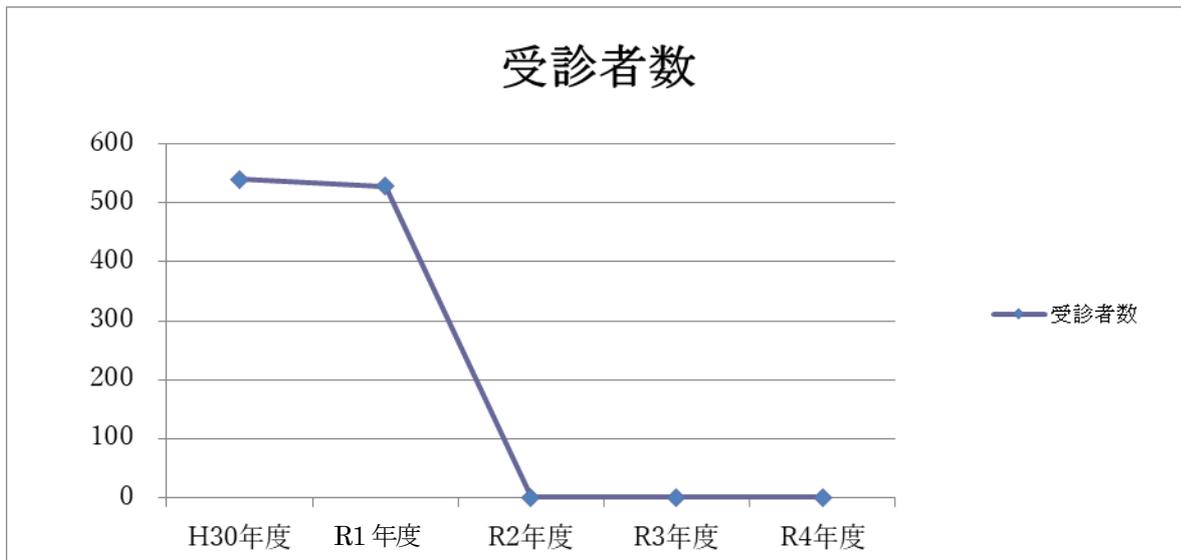
### 2) 実施状況：

令和2年度より事業が中止となった。

#### ① 受診者数の年次推移

(人)

区分	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度
受診者数	540	528	0	0	0



#### ② 健診実績

区分			受診者数	管理区分									
				要医学的管理 (I)		要経過観察 (II)		要指導 (III)		管理不要 (IV)		正常 (N)	
				人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
小学校	4年生	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
中学校	1年生	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計		男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

	女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

### 3) 健診方法

#### ① 健診項目

小児生活習慣病予防健診調査票（家族歴、糖尿病の有無）、身体計測（肥満度の計算）、血中脂質検査、血圧測定

#### ② 判定区分

健診各項目を小児生活習慣病基準値からの乖離度合で判定し、同時にその判定の組合せで5段階の総合判定を行う。  
総合判定には専門医師が関与するとともに総合判定のランクに対応して指導（管理）区分を決定する。

管理区分	内容
I	要医学的管理
II	要経過観察
III	要指導
IV	管理不要
N	正常

### (13) 先天性代謝異常等検査

#### 1) 検査概要

目的：先天性代謝異常症等の早期発見

対象：新生児（原則として保護者の検査希望）

#### 2) 実施状況

平成11年度より岡山県からの委託事業として実施しているが、平成18年度より高知県、平成20年度より鳥取県から委託を受け、平成21年度より政令指定都市への移行に伴い、岡山市から委託を受けている。

また平成24年度からタンデムマス検査が導入され対象疾患は従来の6疾患から19疾患に拡大し、一時的ではあるが埼玉県、愛媛県からの委託を受けた。

平成25年度からは島根県より3項目の委託を受けた。

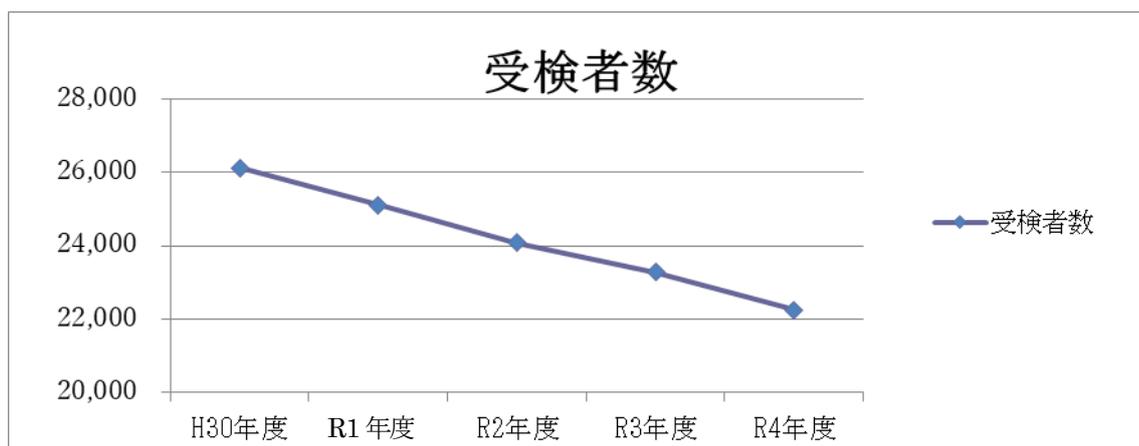
23,281人（初回検体数:23,281人、再採血による再検査数:501人）の検査を実施し、前年度に比べ810人（3.36%）の減少であった。

確定患児は28人（0.12%）であった。

#### ① 受検者数の年次推移

(人)

区分	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度
受検者数	26,131	25,106	24,091	23,281	22,252



#### ② 検査実績

対象疾患	検査総数	要再検査	要精検	患児件数
先天性甲状腺機能低下症	22,252	307 (1.38%)	56 (0.25%)	25 (0.11%)
先天性副腎過形成症		108 (0.49%)	11 (0.05%)	1 (0.00%)
ガラクトース血症		32 (0.14%)	8 (0.04%)	0 (0.00%)

アミノ酸代謝異常症	22,048	7 (0.03%)	6 (0.03%)	2 (0.01%)
有機酸代謝異常症		16 (0.07%)	2 (0.01%)	1 (0.00%)
脂肪酸代謝異常症		2 (0.01%)	8 (0.04%)	0 (0.00%)
低出生体重児と検体不備の2回採血		474 (2.13%)		

### 3) 検査方法

出生から4～6日目に、新生児の踵から4スポットの血液をろ紙に採血する。  
よく乾燥されたものを検体とする。

ガラクトース血症はマイクロプレート酵素法及びボイトラー法で検査。

先天性甲状腺機能低下症・先天性副腎過形成症はELISA法で検査。

アミノ酸代謝異常症、有機酸代謝異常症、脂肪酸代謝異常症はタンデムマス法で検査する。

## 2 環 境 部

### (1) 飲料水検査

#### 1) 検査概要

目的・・・水道事業、食品製造、飲用井戸、建築物等における安全な飲み水の確認  
対象・・・自治体、事業所、ビル管理業者、貯水槽清掃業者及び個人

#### 2) 実施状況

9,904件検査を受託し、前年度に比べ135件の減少であった。

#### ① 受託検査数の年次推移

(件)

30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度
10,315	9,970	9,858	10,039	9,904

#### ② 令和4年度の検査実績

(件)

業務分類	検査種別	件数
水道事業	基準項目	564
	省略不可項目	645
	簡易項目	2,070

	水質管理目標設定項目	164
	農薬類	860
	クリプトスポリジウム	730
	クリプトスポリジウム汚染指標菌	1,555
	簡易項目（学校関連）	244
ビル管理関係	16項目	210
	11項目	152
	消毒副生項目	184
飲用井戸水等	化学・細菌検査	3,465

### 3) 検査方法

厚生労働省告示第 261 号、上水試験方法、食品衛生法等による試験法で各検査項目を測定する。

### 4) 登録検査機関

水道法に基づき指定検査機関として認可されていたが、同法の改正により平成 16 年 2 月 27 日から厚生労働大臣が認可する登録検査機関に移行した。  
また、建築物衛生法に基づく水質検査は昭和 47 年より岡山県知事登録検査機関となっている。

## (2) 簡易専用水道検査

### 1) 検査概要

目的・・・建築物等における安全な飲み水の確保  
 対象・・・自治体、事業所、マンション管理業者等

### 2) 実施状況

2,204 件を受託し、前年度に比べ 13 件の減少であった。

#### ① 受託検査数の年度別推移

(件)

30 年度	R1 年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度
2,206	2,230	2,217	2,217	2,204

#### ② 令和 4 年度の検査実績

(件)

簡易専用水道		小規模 貯水槽水道他	総件数
現場検査	書類検査		
1,789	247	168	2,204

#### ③ 令和 4 年度の不適合率

簡易専用水道	小規模 貯水槽水道	全 体
27.3%	28.0%	27.3%

※不適合率とは「良好」以外と判定された施設の割合

#### ④ 簡易専用水道の不適合率の年度別推移

30 年度	R1 年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度
28.9%	27.7	28.3	27.6	27.3

### 3) 検査方法

水道法、水道法施行規則、厚生労働省告示並びに岡山県、岡山市及び倉敷市簡易専用水道の取扱いに係る指導指針

### 4) 登録検査機関

水道法第34条第2項に基づく指定検査機関として昭和54年10月から検査を行っているが、同法の改正により平成16年3月31日から厚生労働大臣が認可する登録検査機関に移行した。

### (3) 浄化槽法定検査

#### 1) 検査概要

目的・・・事業所・店舗や家庭等の浄化槽放流水に係る公共用水域の水質の保全  
 対象・・・浄化槽設置者又は管理者

#### 2) 実施状況

7条検査 720 件、11条検査 50,451 件を合わせて 51,171 件の検査を受託し、前年度に比べ 206 件の増加であった。

##### ① 法定検査数の年次推移

(件)

30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度
50,640	50,615	50,962	50,965	51,171

##### ② 7条検査数の年次推移

(件)

30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度
870	789	758	690	720

##### ③ 11条検査数の年次推移

(件)

30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度
49,770	49,826	50,204	50,275	50,451

##### ④ 令和4年度の検査判定内訳

(件)

判定	7条検査	11条検査		
			みなし 浄化槽	合併処理 浄化槽
適正	533	31,204	7,846	23,358
概ね適正	178	18,534	4,025	14,509
不適正	9	713	416	297
総件数	720	50,451	12,287	38,164

### 3) 検査方法

浄化槽法、浄化槽法施行規則、環境省告示並びに岡山県及び岡山市要綱

### 4) 検査システム

#### ○7条検査（設置後検査）

浄化槽設置者（又は施工業者）は、浄化槽設置前に設置票、浄化槽維持管理及び水質検査契約書、7条検査依頼書に検査料金を添えて岡山県浄化槽施工協同組合の窓口に提出する。提出された書類、検査料金は後日検査機関に送付され、使用開始（保守点検業務開始）報告により7条検査の実施計画を立てる。

検査料金は、浄化槽の規模にかかわらず1件について8,000円（非課税）と定めている。

#### ○11条検査（年1回定期検査）

浄化槽設置者（管理者）は、保守点検業者、清掃業者及び指定検査機関と一括契約方式により委託契約を結び、検査料金は原則保守点検業者の協力により保守点検料金に含めて徴収され、法定検査実施後に検査機関に支払われる。

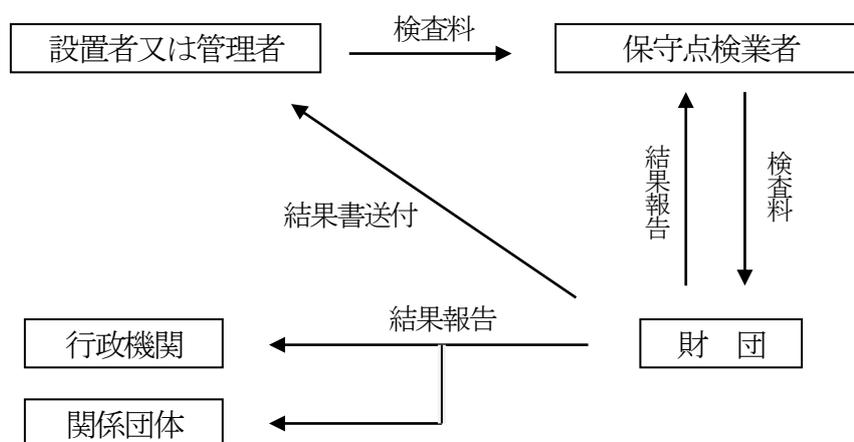
検査料金は、浄化槽の規模にかかわらず1件について5,700円（非課税）と定めている。

#### ○検査について

検査は、外観検査、水質検査、書類検査について行い、設置者（管理者）に検査結果書を送付する。

検査結果で「不適正」と判定された浄化槽及び未保守浄化槽については、関係行政機関、関係団体に報告し改善指導を要請している。

また、保守点検業者及び施工業者にも改善策を講ずるべく不適正の内容を報告している。



### 5) 指定検査機関

昭和61年4月に浄化槽法第57条の規定に基づく岡山県知事指定浄化槽検査機関として指定を受け検査を行っている。

#### (4) 岡山県浄化槽水質管理実施要綱に基づく検査

##### 1) 検査概要

目的・・・事業所、店舗、家庭等の浄化槽の規模に応じた放流水の水質状況確認及び浄化機能検査

対象・・・浄化槽設置者又は管理者

##### 2) 実施状況

5,849件検査を受託し、前年度に比べ211件の減少であった。

##### ① 受託検査数の年次推移

(件)

30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度
6,282	6,177	5,988	6,060	5,849

##### ② 検査実績

(件)

R4年度	機能検査	放流水検査
総検査受付数	577	5,272

##### ③ 主な項目の検査数

(件)

検査項目	件数
pH	5,669
BOD	5,183
COD	3,221
SS	2,990
ノルマルヘキサン抽出物質	529
全窒素	2,582
全りん	2,578
塩化物イオン	4,131
透視度	4,131
大腸菌群数	1,971
外観	5,536
臭気	4,038

### 3) 検査方法

衛浄第 34 号、JIS K 0102 工場排水試験法、環境省告示等による試験方法で検査項目を測定する。

### 4) 指定検査機関

昭和 61 年 4 月に浄化槽法第 57 条の規定に基づく岡山県知事指定浄化槽検査機関として指定を受け検査を行っている。

## (5) 産業排水検査

### 1) 検査概要

目的・・・事業所等による排水の汚染状況確認

対象・・・自治体、事業所等

### 2) 実施状況

3, 127 件検査を受託し、前年度に比べ 154 件の減少であった。

#### ① 受託検査数の年次推移

(件)

30 年度	R1 年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度
2, 604	2, 890	2, 719	3, 281	3, 127

#### ② 検査実績

(件)

R4 年度	理化学検査	微生物検査
総検査項目数	15, 135	804

#### ③ 主な項目の検査数

(件)

検査項目	件数
pH	1, 518
BOD	1, 584
COD	2, 068
SS	1, 340
MLSS	66

ノルマルヘキサン抽出物質	1,432
窒素含有量	1,899
燐含有量	1,889
塩素イオン	393
カドミウム及びその化合物	129
鉛びその化合物	166
六価クロム化合物	124
シアン化合物	98
有機燐化合物	76
砒素及びその化合物	129
総水銀	123
アルキル水銀化合物	60
PCB	60
六価クロム溶出試験	328
大腸菌群数	803

### 3) 検査方法

JIS K 0102 工場排水試験法、環境省告示等による試験方法で測定する。

### 4) 登録検査機関

計量法第 107 条の規定による岡山県知事登録の計量証明事業所

## (6) 河川水検査

### 1) 検査概要

目的・・・河川、海域、湖沼等における自然環境の保全と安全な生活環境の確保  
 対象・・・自治体、事業所等

### 2) 実施状況

1,318 件検査を受託し、前年度に比べ 228 件の減少であった。

#### ① 受託検査数の年次推移

(件)

30 年度	R1 年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度
1,064	1,060	879	1,546	1,318

② 検査実績

(件)

R4 年度	理化学検査	微生物検査
総検査項目数	12,549	1,216

③ 主な項目の検査数

(件)

検査項目	件数
pH	2,213
BOD	1,379
COD	1,447
DO	1,976
SS	1,664
ノルマルヘキサン抽出物質	358
全窒素	1,147
全磷	1,024
塩素イオン	19
カドミウム	111
鉛	139
六価クロム	117
全シアン	107
砒素	251
総水銀	113
アルキル水銀	63
PCB	94
農薬 (ゴルフ場等)	327
大腸菌群数	15
大腸菌数	1,201

3) 検査方法

JIS K 0102 工場排水試験法、環境省告示等による試験方法で測定する。

4) 登録検査機関

岡山県知事登録の計量法第 107 条の計量証明事業所

## (7) 食品検査

### 1) 検査概要

目的・・・安心・安全な食品の確保、飲食物に起因する衛生上の危害防止

対象・・・自治体、食品製造業者、食品販売店及び給食事業所等

### 2) 実施状況

行政検査については 5,538 件検査を受託し、前年度に比べ 356 件の減少であった。輸入食品自主検査については、20 件を受託し、前年度に比べ増減はなかった。

#### ① 受託検査数の年次推移

(件)

	30 年度	R1 年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度
衛生検査	8,168	7,272	5,504	5,894	5,538
輸入食品 自主検査等	33	24	25	20	20

#### ② 検査実績

(件)

R4 年度	理化学的検査項目	細菌学的検査項目
検査項目数	2,330	9,314

#### ③ 主な項目の検査数

(件)

検査項目	衛生検査	輸入食品自主検査等
栄養成分等検査	1,061	15
添加物等検査	181	19
重金属類の検査	617	
農薬等検査	95	
器具容器包装の検査	140	
異物検査	103	
清涼飲料水・ミネラルウォーター	22	
食品製造用水	111	
細菌数	2,646	
大腸菌群	2,186	
E. coli・大腸菌	989	
サルモネラ	894	
黄色ブドウ球菌	1,602	
腸炎ビブリオ	249	
腸管出血性大腸菌	166	
発育しうる微生物	93	8
ノロウイルス	489	

### 3) 検査方法

食品衛生法等に基づく公定法又は公定法に準拠した方法により、国の認可を受けた「検査実施標準作業書」等に基づき行う。

### 4) 登録検査機関

食品衛生法に基づき昭和 63 年 3 月 10 日付けで認可されていた「指定検査機関」が同法の改正により平成 16 年 2 月 27 日から厚生労働大臣が認可する「登録検査機関」に移行し、平成 21 年 2 月 27 日付けで厚生労働大臣から登録の更新を受けている。また、平成 21 年 6 月に食品衛生法第 26 条 3 項の追加登録を受け、輸入食品等命令検査の受託を開始している。

## (8) 腸内細菌検査等

### 1) 検査概要

目的・・・腸内細菌に起因する衛生上の危害防止

対象・・・食品製造業者、給食従事者、水道関連事業者等

### 2) 実施状況

11,622 件検査を受託し、前年度に比べ 29 件の減少であった。

#### ① 受託検査数の年次推移

(件)

30 年度	R1 年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度
10,123	11,908	11,439	11,651	11,622

#### ② 主な項目の検査数

(件)

	検査項目	件数
腸内細菌	赤痢・腸チフス・パラチフス	8,659
	サルモネラ	11,536
	腸炎ビブリオ	100
	腸管出血性大腸菌 (O157、O26 を含む)	8,415
砂場の砂	犬猫回虫卵	86
	砂場の細菌 (E. coli)	46

## (9) その他の検査

### 1) 検査概要

目的・・・プール、温泉等の衛生管理の保全とレジオネラ症の発症防止  
対象・・・学校、温泉施設等

### 2) 実施状況

2,377 件検査を受託し、前年度に比べ 115 件の増加であった。

#### ① 受託検査数の年次推移

(件)

30 年度	R1 年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度
2,326	2,478	1,641	2,262	2,377

#### ② 主な項目の検査数

(件)

検査項目	件数
プール水検査 (化学・細菌)	177
プール水検査 (トリハロメタン)	426
温泉検査	18
室内の化学物質検査	32
浴槽水検査	460
レジオネラ属菌検査	1,057

### 3) 検査方法

「遊泳用プールの検査基準について」及び「学校環境衛生の基準」に示された内容に沿って、定められた項目及び検査方法で検査を実施する。

温泉法、温泉法施行規則、鉱泉分析法指針に則り実施する。

室内空气中化学物質の室内濃度指針値及び標準的測定方法について実施する。

### 4) 登録検査機関

温泉法第 19 条の規定による岡山県知事登録温泉分析機関

### 3 精度管理室

#### 1) 環境部における ISO9001 の運用状況

環境部河川水・排水検査部門は、顧客サービスの向上と品質マネジメントシステムの強化を目指す目的から、平成 14 年 10 月に（一財）日本品質保証機構（JQA）から ISO9001 の認証を取得した。

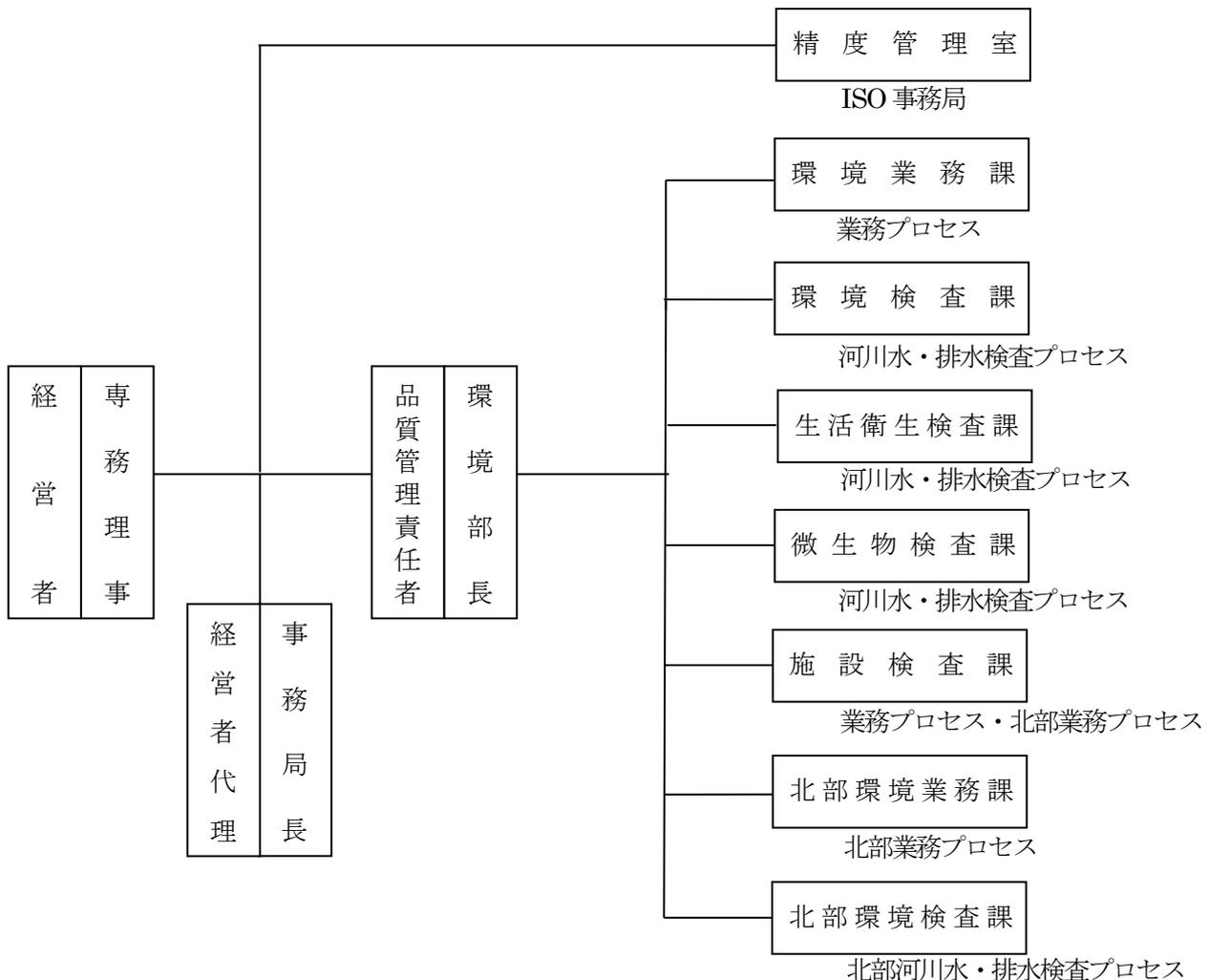
年 1 回の定期審査、3 年毎の更新審査を受け、認証を維持しており、平成 29 年 10 月に ISO9001:2015 へ移行した。

なお、計画的に年 2 回の内部監査を実施し、年度末には経営者によるマネジメントレビューで品質マネジメントシステムの有効性評価を行い、継続的改善に繋げている。

#### 2) ISO 対象組織と責任体制

経営者に専務理事、その代理者を事務局長とし、品質管理責任者（環境部長）を中心に品質管理体制の強化及び品質管理の継続的改善に努めているが、精度管理室はその事務局の役割を担っている。

令和 4 年度の ISO9001 対象部門の体制



3) 水道 GLP 体制の強化及び取り組み状況

環境部飲料水検査部門は、平成 16 年 3 月より水道法第 20 条第 3 項に基づく厚生労働大臣登録水質検査機関として登録を受け、平成 21 年 1 月に水質検査機関による水道水水質検査結果の信頼性確保を目的とした（公社）日本水道協会の水道水質検査優良試験所規範（水道 GLP）の認定を取得している。

精度管理室では、検査部門から独立した信頼性確保部門として、水道 GLP 品質管理マニュアルに従い検査が適切に実施されるよう、計画的な内部・外部精度管理調査、内部監査やマネジメントレビューを行うなど検査精度の維持向上に努めている。

また、毎年厚生労働省が行っている水道水質検査の統一精度管理調査においては、連続して良好な評価を受けている。

4) 簡易専用水道 GLP 体制の強化及び取り組み状況

環境部簡易専用水道検査部門は、平成 16 年 3 月より水道法第 34 条の 2 第 2 項に基づく厚生労働大臣登録簡易専用水道検査機関として登録を受けており、検査結果の信頼性を確保するためのシステムとして GLP 体制を整備している。

精度管理室では、その信頼性確保部門として、簡易専用水道業務規定に従い検査が適切に実施されるよう、計画的な内部・外部精度管理調査、内部監査やマネジメントレビューを行うなど、検査精度の維持向上に努めている。

5) 食品 GLP 体制の強化及び取り組み状況

環境部食品検査（理化学的検査区分及び細菌学的検査区分）は、平成 16 年 2 月より食品衛生法第 4 条第 9 項に基づく厚生労働大臣登録食品検査機関として登録を受け、試験検査結果の信頼性を確保するシステムとして GLP 体制を整備している。

精度管理室では、検査部門から独立した信頼性確保部門として、登録検査機関業務規程に従い検査が適切に実施されるよう、計画的な内部・外部精度管理調査やマネジメントレビューを行うなど、検査精度の維持向上に努めている。更に定期的な内部点検で、業務が適正に行われているか監視している。

また、毎年中国四国厚生局による立入検査がおこなわれ、登録検査機関の業務管理等について監査を受けている。

6) HACCP（危害分析重要管理点）衛生管理計画の作成支援の取り組み状況

食品衛生法改正（平成 30 年 6 月）により、全ての食品等事業者を対象に HACCP による衛生管理が制度化され、国による食品の安全性のさらなる向上が推し進められている。当財団では、岡山県からの委託事業の衛

生管理計画の作成、研修の開催や相談窓口等を通じ、食品等事業者の支援を行うなど技術や知識の情報提供等に努めている。

7) 財団の提供するサービスの信頼性の確保・向上を目指し、顧客満足度の向上を図るため、財団全般への品質管理（ISO9001）の考え方を踏まえた業務改善等の浸透を進めている。

外部講師による研修会の開催等を行うとともに、ヒヤリハット、アクシデント等の発生防止に向けた対策を適確に行っていくことが当財団の信頼性確保のため極めて重要であるため、研修会等により専門家の助言、指導を得ている。

#### 外部機関等による審査

規格	審査機関	月日	備考
ISO9001:2015	(一財)日本品質保証機構 (JQA)	令和4年 9月14～16日	更新審査
厚生労働大臣登録食品検査機関	中国四国厚生局	令和4年 8月30日	定期審査 (立入検査)

#### 外部講師による研修会

講師	内容	月日	出席者
(一財)日本品質保証機構 企画センター 特別参与 仲矢新氏	強みを活かし弱みを克服する分析の方法について	令和4年 10月5日～6日	財団全体 ※117名

※欠席者へ資料・要旨等回覧

#### 専門家による助言、指導

講師	内容	月日	出席者
(株)アルマ経営研究所	アクシデント等の発生防止のための取り組みについて	1月26日 2月14日 3月29日	保健部等

### 3 食鳥検査事業

「食鳥処理の事業の規制及び食鳥検査に関する法律」に基づき、岡山県知事の指定検査機関として、県内の大規模食鳥処理場 5 施設に、15 名の検査員（獣医師）を派遣し、高病原性鳥インフルエンザ（HPAI）をはじめ各種鶏病等の検査の実施により、検査不合格の食鳥の廃棄措置等を通じ安全な鶏肉流通の確保に努めた。

(単位：千羽)

区分 \ 年度	令和3年度	令和4年度	増減 (%)
食鳥検査羽数	19,489	19,543	100.3

#### 1) 検査概要

目的・・・食鳥肉等に起因する衛生上の危害の発生を防止し、県民の健康の保護を図ることを目的とする。

対象・・・県内の大規模食鳥処理場（年間30万羽を超えて処理する施設）5施設。  
 (内訳：ブロイラー処理2施設、成鶏処理3施設)

#### 2) 実施状況

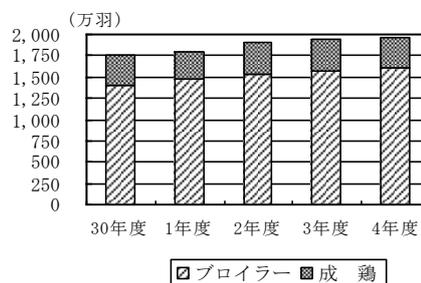
19,543,553 羽の検査を実施した。

内訳はブロイラー16,071,329 羽（前年度比 102.9%）、成鶏 3,472,224 羽（前年度比 89.7%）であった。

##### ① 検査羽数の推移

年度	ブロイラー	成鶏	合計
30年度	14,031,134	3,540,886	17,572,020
1年度	14,704,192	3,310,556	18,014,748
2年度	15,310,100	3,694,158	19,004,258
3年度	15,617,491	3,871,952	19,489,443
4年度	16,071,329	3,472,224	19,543,553

(羽)



② 検査成績

(令和4年度)

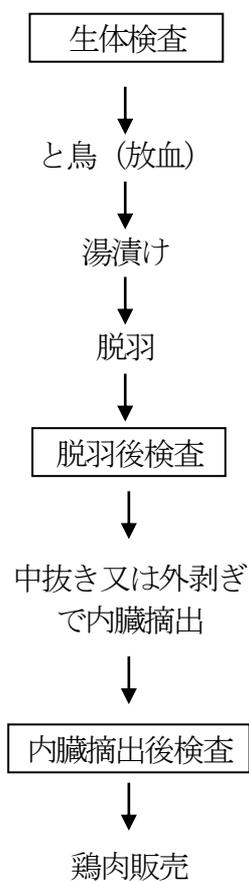
検査項目		廃棄区分			
		禁 止	全部廃棄	一部廃棄	
疾病別羽数	ウイルス・クラミジア類	高病原性鳥インフルエンザ			
		鳥インフルエンザ			
		鶏痘			
		鶏伝染性気管支炎			
		鶏伝染性喉頭気管炎			
		伝染性ファブリキウス嚢病			
		ニューカッスル病			
		鶏白血病			
		封入体肝炎			
		マレック病			
	その他				
	細菌症	鳥マイコプラズマ症			
		大腸菌症	1,167	126,006	
		伝染性コリーザ			
		サルモネラ症			
		鳥結核			
		ブドウ球菌症			
	その他疾病	その他			
		毒血病			
		膿毒症			
		敗血症	43	378	
		豚丹毒菌病			
		ロイコチトゾーン症			
		真菌症			
		原虫症（トキソ除）			
		寄生虫病			
		変性	971	15,116	14,719
		尿酸塩沈着症			
		水腫		120	1,741
		腹水症	765	37,427	
		出血	16	17,876	34,754
		炎症	232	16,097	410,007
		萎縮			
		腫瘍		1,601	1,077
		臓器の異常・色形臭等		11	4
		異常体温			
黄疸		62			
外傷		1,712	11,670		
中毒諸症					
削瘦・発育不良	9,022	13,020			
放血不良		2,403			
湯漬過度		152			
その他	1	27,606			
合 計		12,217	259,587	473,972	
			745,776		

### 3) 検査方法

「食鳥処理の事業の規制及び食鳥検査に関する法律」に基づき、検査員（獣医師）が各処理場の食鳥処理衛生管理者と連携して検査を実施する。

### 4) 検査システム

鶏病の種類・程度等により「と鳥または解体禁止」、「全部廃棄」、「一部廃棄」に分類して廃棄措置をする。



### 5) 法律上の位置づけ

岡山県知事の指定検査機関であり、岡山県知事から食鳥検査委任を受けている。

## 5 附属病院

### 医療の提供

診療科は内科、呼吸器科、胃腸科、循環器科、放射線科、リハビリテーション科で、病床数126床で運営している。

呼吸器疾患の専門性を活かし肺結核、慢性呼吸不全、気管支喘息、肺がんなどの治療に取り組むとともに、気管支鏡検査をはじめとした確定診断や治療法の選択を行い、他の医療機関からの患者紹介に対応している。

また、財団内の人間ドック部門・健康診断部門・健康増進部門との連携により、脳卒中、がん、心臓病、糖尿病などの生活習慣病の早期発見、早期治療に努めるとともに、禁煙指導にも重点を置いており、ニコチン依存から逃れるための禁煙外来や啓発のための講師派遣も行っている。

### (1) 外来状況

#### 1) 概要

内科全般を広く診療し、特に呼吸器疾患に対する専門医の適切な診断・治療に取り組んでいる。

なお、コロナワクチン接種や PCR 検査実施を継続実施したが、受診者数は減少となった。

診療時間：平 日 9：00～12：00                      13：30～17：00  
土曜日 9：00～12：00（健康診断は行っていない）

#### 2) 状況

##### ① 年度別外来受診・健診の状況

(人)

	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度
外来受診	13,612	13,045	13,120	11,595	11,906	12,364
健 診	7,189	1,513	1,557	2,073	7,092	3,271
計	20,801	14,558	14,677	13,668	18,998	15,635

## (2) 入院状況

### 1) 概要

呼吸器疾患の専門性や一般病棟と療養病棟の併設メリットを活かしながら、「信頼される医療の確保」、「心のかような看護の推進」に取り組んでいる。

機能性と安全性を重視した医療設備により、専門的で人に優しい医療の提供を行っている。

病棟  
看護体制

結核46床（内休止26床） 一般40床 療養40床  
2交代制

### 2) 状況

#### ① 年度別入院患者の状況（1日当たりの患者数）

(人)

	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度
結核病棟	9.8	8.7	10.3	17.1	19.5	16.4
一般病棟	29.6	28.8	28.5	24.7	19.2	20.0
療養病棟	32.5	33.2	32.2	31.8	30.5	30.9
全体	71.9	70.7	71.0	73.6	69.2	67.3

## (3) リハビリテーション

各種リハビリ機器を備えた訓練室と理学療法士による専門的リハビリにより、QOLを高めるとともに機能回復に努めている。

本院は、呼吸器の専門病院でもあるため、COPDなど呼吸器疾患の患者に呼吸方法の指導や運動療法など、在宅での自己管理についても指導している。

## (4) 先進の医療機器による検査

早期発見、早期治療のため、電子内視鏡、超音波断層装置、CT、MRIを活用し、的確な診断のもとに治療を行っている。

## (5) 安全・安心な患者満足度の高い医療の提供

医療安全管理委員会、感染予防対策委員会などの各委員会の活性化を図り、安全・安心

な医療サービスの提供に努めている。

また、小集団活動で病棟の清潔な環境確保等に取り組むとともに、高齢者にも食べやすく美味しくソフト食の提供など調理方法の工夫を行っている。

## (6) 地域連携の推進

地域連携室を設け、地域の病院や診療所と連携し、紹介患者のスムーズな受け入れに努めており、入院患者の約7割が地域の病院・診療所からの紹介となっている。

また、開業医との連携を密にし、短期入院患者の受け入れに努めるとともに、平成22年度から退院支援調整室を設置し退院支援等を実施している。

(件)

	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度
退院支援計画書作成件数	81	92	135	105	77	68
介護支援連携指導件数	57	84	120	81	58	42

## (7) 結核医療連携拠点病院の指定

平成25年2月に岡山県から結核診療連携拠点病院に指定され、結核患者への高度医療提供、研修会の開催、医療機関からの相談等を行っている。

相談件数

(件)

相談機関	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度
病院	64	42	50	109	119	86
診療所	12	13	5	11	5	11
高齢者施設		3	4	1	1	
保健所			1			1
大学、学校	2	1				1
その他		5	1		1	
計	78	64	61	121	126	99

## (8) 指導・相談

### 1) 医療相談

医療ソーシャルワーカーを中心に、入院相談や退院支援を行うとともに、地域医療機関や老健・介護保健施設との連携に努めている。

また、患者サポート体制の充実に取り組み、入院、外来患者の心理的・経済的な相談・支援に取り組んでいる。

## 2) 服薬指導

薬剤師が正しい薬の知識をわかりやすく説明している。また、症状にあった正しい服薬について指導を行っている。

## 3) 栄養指導

管理栄養士が個人の病状にあった、実行可能で長続きする食事療法の指導を行っている。

服薬・栄養指導件数

(件)

	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度
服薬指導	451	409	375	331	260	237
栄養指導	595	615	441	323	312	227

## (9) 財団各部門との連携

人間ドック、保健部、南部健康づくりセンターと連携し、地域住民の生活習慣病予防対策に取り組んでいる。

## (10) 難病相談・支援事業

岡山県から「岡山県難病相談・支援センター業務」を受託し（平成16年10月～）、難病患者やその家族からの療養上の悩みや不安、就労等に関する相談に対応している。

相談件数

(件)

	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度
電話相談	609	492	404	378	272	225
面接相談	177	112	95	62	68	53
メール相談	58	41	6.9	20	17	25
合計	844	645	568	460	357	303

交流会、研修会の開催

定例患者交流会等（平成29年度 30回、平成30年度 30回  
令和元年度 28回、令和2年度 19回  
令和3年度 18回、令和4年度 21回

## 6 南部健康づくりセンター

南部健康づくりセンターは、健康増進に関する実践の場の提供と調査・研究等を行う健康づくりの拠点施設として岡山県が整備した施設であり、当財団が県からの指定管理を受け、プール・ジム・スタジオを備えた健康増進施設を管理・運営するとともに、健康増進に係る教育・研修事業、調査・研究事業などを行っている。

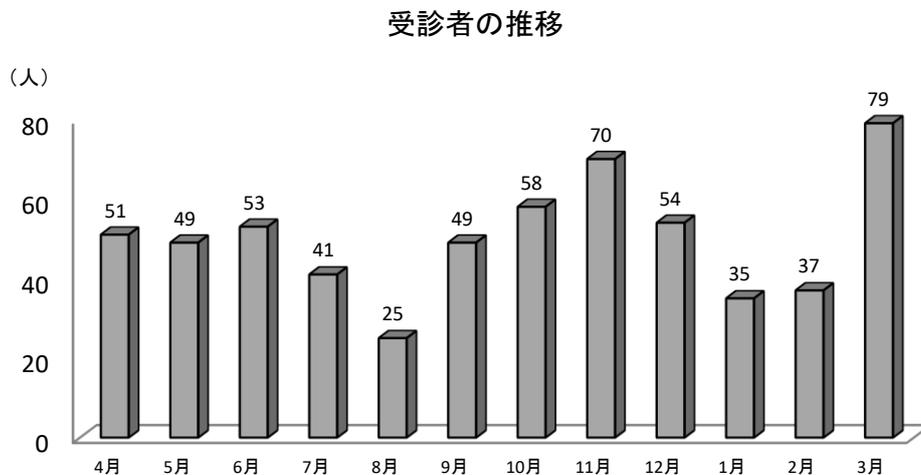
### (1) 健康増進事業

#### 1. ヘルスチェックの状況

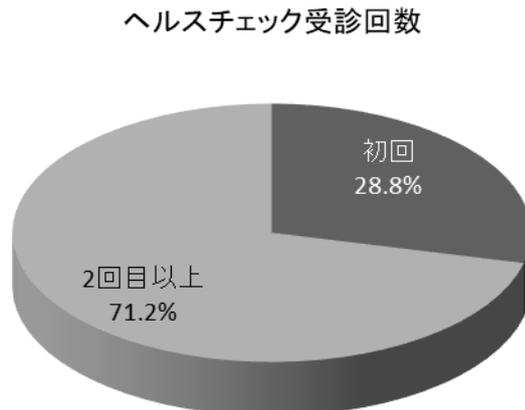
健康増進施設は会員制としており、入会時および入会后1年ごとに利用者の運動能力・機能の測定と健康状態の確認（ヘルスチェック・メディカルチェック）を行い、利用者の方々に安全に施設を利用していただくとともに、健康増進に役立てていただけるように、運動・食事・休養の三分野にわたる運動指導・健康指導を実施している。

#### 1) 受診者の推移

ヘルスチェック受診者は年間601人、1ヵ月平均50人であった。

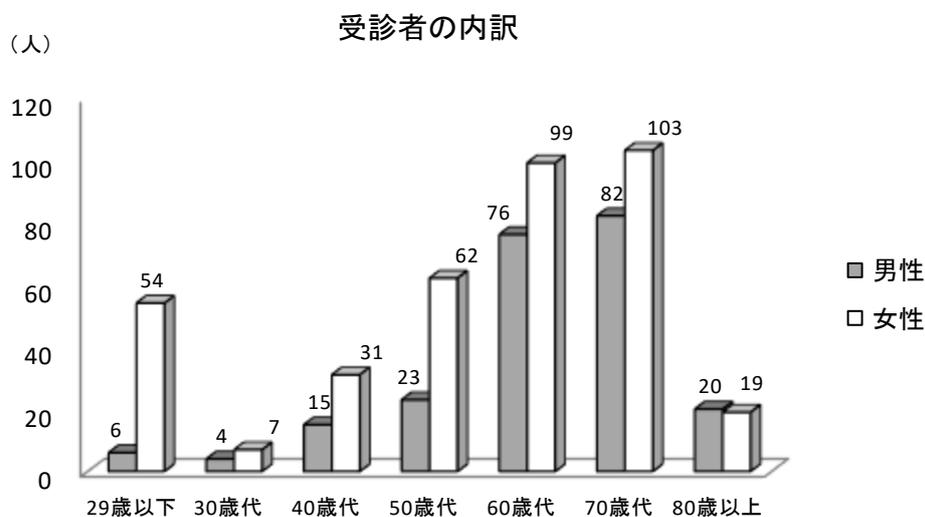


ヘルスチェックの受診回数は、初回（入会時）が28.8%、2回目以上が71.2%であった。



## 2) 受診者の内訳

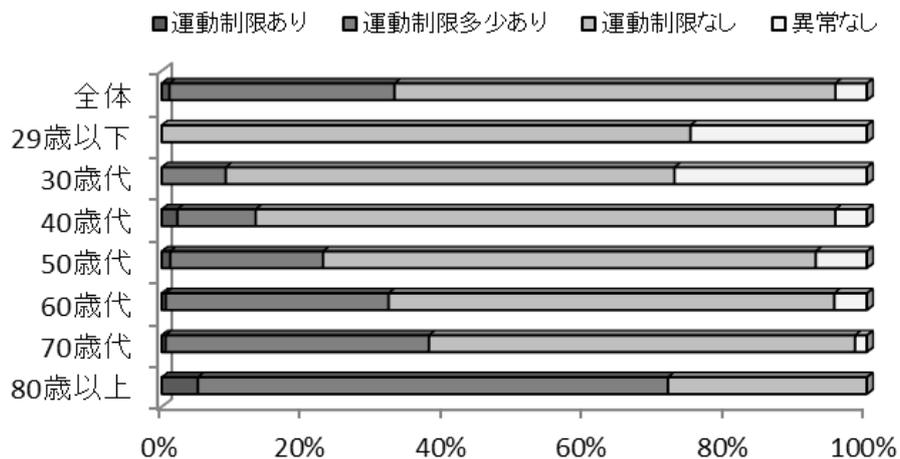
ヘルスチェック受診者の内訳を性別でみると男性が 226 人、女性が 375 人であった。年代別でみると男性、女性ともに 70 歳代が最も多かった。



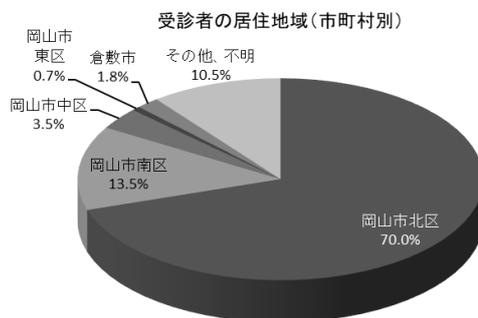
上記のように当施設の利用者には高齢者が多く、内科的疾患、整形外科的疾患などで治療中の人も少なくない。このため、疾病の有無を確認するとともに、疾病がある場合には何らかの運動制限が必要かどうかを判定し、利用者 safely に運動を行っていたりするように指導している。

その運動制限の程度をみると、何らかの運動制限のあった人は全体では 29.8% であったが、60 歳代では 32.0%、70 歳代では 37.3%、80 歳代では 71.8% であった。

### 受診者の運動制限

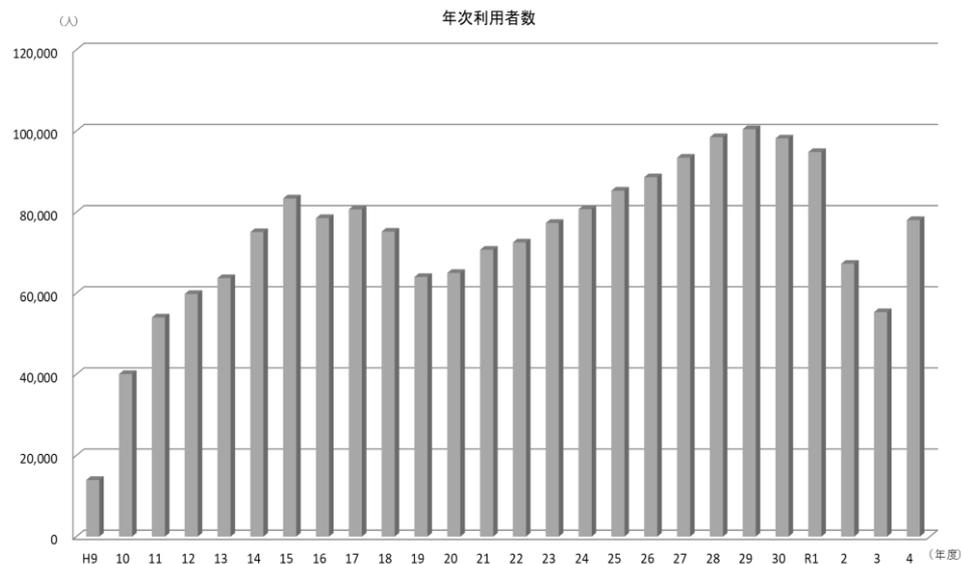
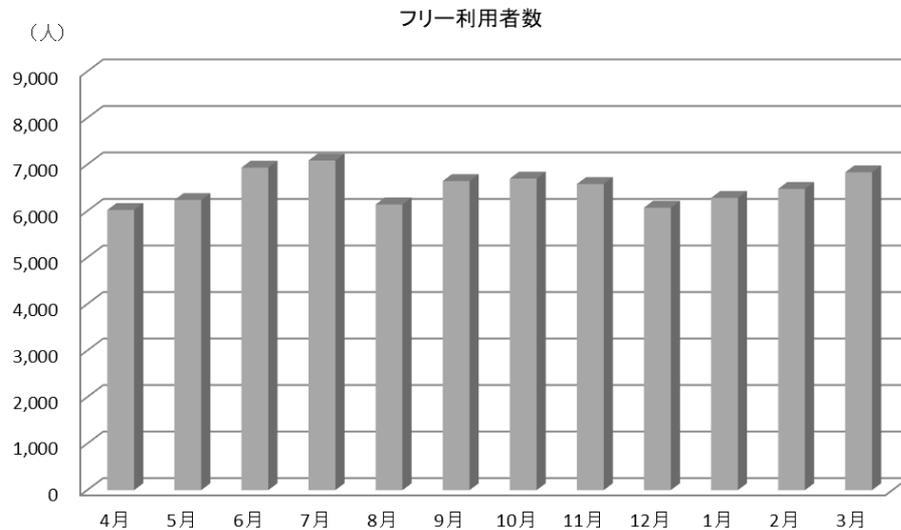


ヘルスチェック受診者の居住地域を市町村別にみると、全受診者のうち 87.7% が岡山市に在住し、ついで倉敷市が多かった。



## 2. 増進施設利用状況

増進施設会員の延べ利用者数とビジター（利用当日のみの利用者）の延べ利用者数の合計は、年間 78,016 人、1 ヶ月平均 6,501 人、1 日平均 255 人であった。



※令和2年度は4月21日～5月31日、令和3年度は5月13日～6月20日と8月20日～9月30日を緊急事態措置等により閉館したため利用者数が減少している。

## 3. お手軽教室

増進施設の会員を対象として、追加料金なしで自由に参加できる運動教室を施設内のプール・スタジオ・ジムで開講している。

### 1) 教室内容

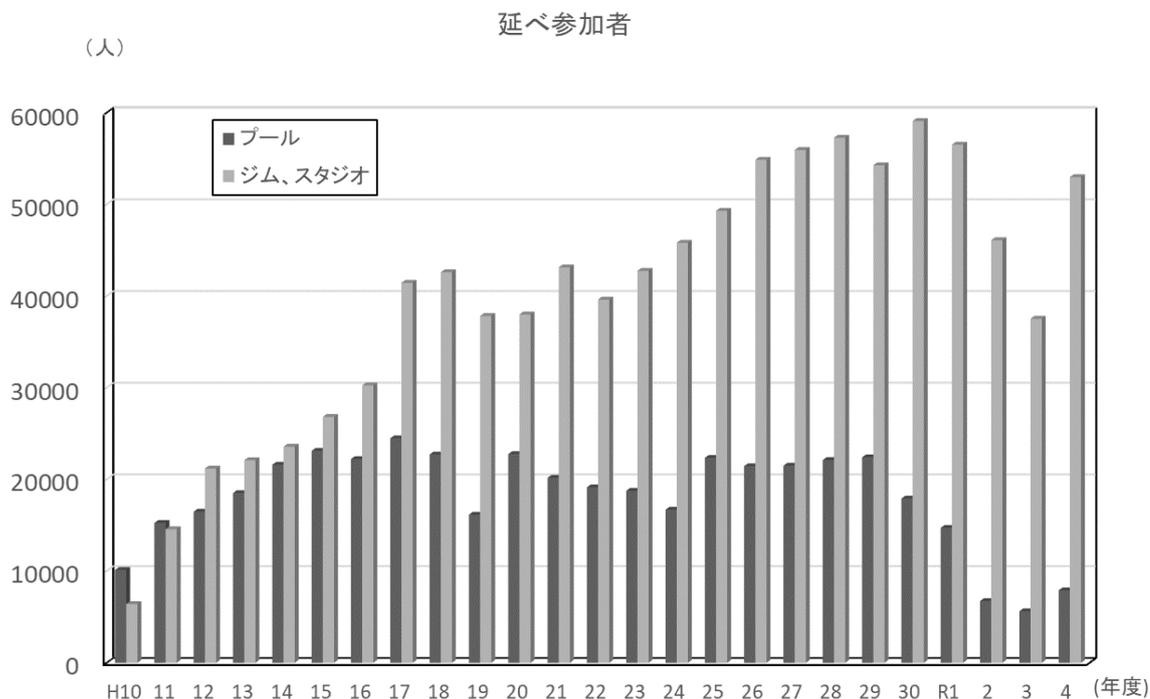
年間で計 67 教室を開講した。

週あたりのお手軽教室開講数（令和4年11月現在）

水泳	超初級スイム	1
	超初級・初級スイム	1
	初級スイム	1
	中級スイム	1
	上級スイム	1
	中上級スイム	1
	中上級インターバル	1
水中運動	アクアビクス	1
	アクアウォーク	1
	アクアビクスゆっくり	1
	アクアビクスしっかり	1
エアロビックダンス	初心者エアロ	3
	初級エアロとストレッチ	1
	初級エアロ	4
	初中級エアロ	3
	中級エアロ	3
	中級ダンスエアロ	1
	中上級エアロ	2
ジム	ラジオ体操	1
	膝腰スッキリマット	2
	肩こり予防	1
	ロコモステップ	2
	チェアビクス	3
	すわってロコトレ	3
	マットトレーニング	3
	ひきしめボディ	2
	ロコトレ	1
	ひきしめサーキット	1
	ラントレーニング	1
	エンジョイステップ	1
	太極拳	太極拳初級
太極拳中級		1
太極養生体操		1
その他	エンジョイフラ	2
	ストレッチヨガ	2
	ストレッチヨガ or ピラティス	1
	パワーヨガ	2
	姿勢改善ポール	2
	ピラティス	2
	バレトン	1
	アルティメットボクシング	1
	マットストレッチ	2

## 2) 参加者の推移

今年度のお手軽教室の参加者数は、延べ60,880人であった。そのうちプール教室参加者数は延べ7,902人と、全体の約13%であった。



## 4. 健康づくり栄養講座及び外部講師料理教室

食事を通じた健康づくりの普及・発展に資するために、南部健康づくりセンター内で栄養講座・料理教室を開催している。

健康づくり栄養講座は、全10回の開催で延べ67人の参加者、初心者のための栄養講座は、全5回の開催で延べ45人の参加者があった。外部講師による料理教室は、全9回の開催で延べ72名の参加があった。

### 健康づくり栄養講座

開催日	テーマ	講話内容	参加人数
6月17日	ヘルシー中華料理	脂質について知ろう	10
6月22日			9
8月19日	夏を涼しく 旬のおばんざい	たんぱく質について知ろう	8
8月24日			5
10月14日	秋の味覚を楽しもう!	食物繊維について知ろう	5
10月19日	秋野菜料理		6
12月9日	お正月に向けて	ビタミン、ミネラルについて知ろう	6
12月14日	簡単おせち料理		8
2月10日	寒い日におすすめ!	水について知ろう	5
2月22日	おうちで居酒屋料理		5

### 初心者のための栄養講座

開催日	テーマ	参加人数
5月21日	簡単キッシュ	9
7月16日	ナスのアラビアータ	8
11月19日	ミートオムレツ	10
1月14日	チキン南蛮	9
3月11日	サーモンのピカタ	9

### 外部講師料理教室

開催日	テーマ	内容	参加人数
6月24日	初夏に向けてティータイム	スコーン、季節のジャム（瓶に詰めてお持ち帰り）	9
7月22日	小麦の風味たっぷり コッペパンにはさみましよう♪	天然酵母のグラムパン、ポークチャップ	6
8月26日	食物繊維で腸活&たんぱく質もとれる！！	和風キッシュ、おかずサラダ（ヨーグルトドレッシング）	6
10月28日	収穫の恵み・秋野菜を使って	秋ナスのスパゲティ、カボチャのソテーとバルサミコドレッシング、かぼちゃのスープ、ほうじ茶のクッキー	10
11月25日	クリスマスに向けて 楽しいホームパーティー	簡単ローストチキン、モッツアレラのライスロッケ、イカのマリネ、季節の果物ゼリー	9
12月23日	手作りのクリスマスケーキ	ドームケーキ、フルーツティー	10
1月27日	バレンタインに向けて	ディアボラチキン、マッシュルームのリゾット、チョコバナナマフィン	8
2月24日	ワインにも合う料理	天然酵母もち麦パン、きのこベーコンの白ワイン蒸し、サラダ（手作りドレッシング）	7
3月24日	春の訪れを待ちわびて 幸せのクッキーつくります	ツナとトマトソースのペンネ、カレースープ、バニラキプフェル	7

## 5. リラクゼーションセミナー

健康増進のためには食事・運動とともに休養も重要である。そこで休養を通じた健康づくりの普及・発展に資するために、南部健康づくりセンター内でリラクゼーションセミナーを開催している。

リンパマッサージのテーマで外部講師を招き、4回実施した。各教室60分間で、テーマに沿った講話やリラクゼーション実技を行った。延べ25人の参加があり、女性の参加が多く、年齢は20～70歳代と幅広かった。

開催日	テーマ	参加人数
7月29日	毎日を快適に！ 1週間分の簡単マッサージ&ストレッチ	5
9月30日	五感を磨いて心と体をリセット！ 全身のセルフリンパマッサージ	8
11月18日	手と頭から体を癒し免疫力UP！ 肩こり、脳疲労、体リセットマッサージ	9
3月24日	頭、目、手、足のドレナージ 老廃物を流してむくみ解消	3

## 6. 健康増進指導体験事業

地域における健康増進の中心的役割を担うグループ・人々を対象に、運動・食事・休養にもとづいた健康増進のための指導を体験してもらい、地域での展開に資することを目的として健康増進指導体験事業を行っている。

令和3、4年度は、緊急事態措置等による閉館と、岡山県新型コロナワクチン接種会場としての施設貸出などもあり、申込がなく中止した。

### (2) 教育・研修事業など

#### 1. 講師派遣事業

岡山県内の各種団体・企業からの依頼を受け、健康増進のための運動・食事・休養などについての講演・セミナーなどの講師として、南部健康づくりセンター内の職員を派遣した。

年間を通して31件の派遣依頼を受託した。

実施日	実施元	人数	会名・講座名	派遣者
5月14日	三井E&S 労働組合連合会 岡山地方支部	51	イキイキ・セカンドライフセミナー	後藤 礼子
7月14日	岡山県難病相談・支援センター	10	定例患者交流会	高橋 卓也
7月7日	赤磐市役所 健康増進課	15	令和4年度糖尿病教室	藤井 由美子 水畑 茜
7月22日	赤磐市役所 健康増進課	15	令和4年度糖尿病教室	水畑 茜
7月29日	赤磐市役所 健康増進課	15	令和4年度糖尿病教室	藤井 由美子

8月18日	岡山県難病相談・支援センター	10	定例患者交流会	藤井 由美子
8月31日	赤磐市役所 健康増進課	15	令和4年度糖尿病教室	藤井 由美子 水畑 茜
9月2日	備中県民局地域政策部高梁地域総務課	20	腰痛・膝痛・肩こり予防講座	斉藤 剛
9月8日	(独) 高齢・障害・求職者雇用支援機構 岡山支部	50	令和4年度健康講話 座ってできる肩凝り解消	水畑 茜
10月4日	地方職員共済組合岡山県支部	50	健康教室	斉藤 剛
10月4日	岡山県工業技術センター	15	健康管理セミナー メンタルヘルス関係講話	後藤 礼子
10月8日	西檐津寿会	15	ロコモ予防のための運動	斉藤 剛
10月13日	岡山県難病相談・支援センター	10	定例患者交流会 のびのびストレッチ	高橋 卓也
10月25日	地方職員共済組合岡山県支部	13	令和4年度実践的健康教室事業 セルフケア教室	川上 和真 藤井 由美子
10月28日	備前市	15	特定保健指導(積極的支援・動機付け支援) やせる体操	水畑 茜
10月29日	(株)エスアールティー	30	研修会	藤井 由美子
11月3日	(公社) 岡山県医師会	244	産業医研修会	藤井 由美子
11月13日	(株)エスアールティー	30	研修会	藤井 由美子
11月15日	テルモ(株)岡山支店	30	社内研修 休養と上手なストレスとの付き合い方	後藤 礼子
11月25日	備前市	15	特定保健指導(積極的支援・動機付け支援) 内臓脂肪撃退! 効果的な有酸素運動	水畑 茜
11月26日	(株)エスアールティー	30	研修会	藤井 由美子
11月29日	矢掛町社会福祉協議会	100	矢掛町ボランティアのぞみ会研修会	斉藤 剛
12月1日	備前県民局東備地域事務所	10	講習会 運動コース「肩こり、首こり、腰痛予防講座」	高橋 卓也
12月2日	備中県民局	20	上手な心と体の休め方~お風呂でリフレッシュ~	後藤 礼子
12月16日	地方職員共済組合岡山県支部	14	令和4年度実践的健康教室事業 セルフケア教室	川上 和真 藤井 由美子
1月17日	備中県民局	20	メンタルヘルス 上手な心と体の休め方~忙しい毎日を元気に過ごすために~	後藤 礼子
1月19日	岡山県工業技術センター	15	健康教室 肩こり・腰痛予防教室	高橋 卓也
1月27日	備前市	15	特定保健指導(積極的支援・動機付け支援) 代謝アップでさらに脂肪燃焼! 筋肉を	水畑 茜

			育てよう	
2月17日	備前県民局	30	健康管理セミナー アンチエイジングと食事	藤井 由美子
2月28日	真庭市シニアクラブ連合会	60	健康づくり研修会	斉藤 剛
3月9日	岡山県難病相談・支援センター	10	定例患者交流会 管理栄養士による講座	藤井 由美子

## 2. 図書の貸し出し（沼田文庫）

一般書から専門書まで健康増進に係る図書を整備し、閲覧・貸出できるようにしている。

令和4年度で貸し出しを受けた人数、貸し出された図書の冊数は、1年間で173名、255冊の利用があった。感染対策として、返却後の書籍は受付にて3日間保管してから、書架に戻している。

また令和4年度分として11月に6冊を購入した。

## 3. 大会議室・小会議室・栄養指導室・多目的聴講室

南部健康づくりセンター内の会議室の貸し出しを行っている。

令和4年4月1日～11日まで大会議室・栄養指導室・多目的聴講室を岡山県新型コロナワクチン接種会場として貸し出した。

なお、多目的聴講室は防音自動ドアが故障中のため貸し出しを中止している。

### 1) 大会議室

貸し出し件数は、年間20件であった。

### 2) 小会議室

貸し出し件数は、年間42件であった。

### 3) 栄養指導室

貸し出し件数は、年間14件であった。

### 4) 多目的聴講室

貸し出し件数は、年間11件であった。

## 4. 研究室の開放

南部健康づくりセンター内の研究室の年間契約による貸し出しを行っている。貸し出し件数は、年間2件であった。

### (3) 調査・研究事業

#### 1. 業績

##### 1) 学会発表

##### ア SNS を利用した運動動画配信の取り組みについて

森下 明恵、斉藤 剛、高橋 卓也、川上 和真、水畑 茜、関 明穂（第27回岡山県保健福祉学会、誌上発表）

##### 2) 調査事業

##### ア 健康増進施設における標準的な運動プログラム検証のための実証事業 研究代表者 澤田 亨（早稲田大学 スポーツ学院・教授）

### (4) スポーツ医科学部門

#### 1. 受診者数及びその内訳

天満屋女子陸上競技部の13名に対し骨密度測定（DEXA法）と体脂肪測定（In Body）を実施した。

### (5) 健康診断（人間ドック）部門

#### 1. 人間ドック

##### 1) 受診者の内訳

年間で11,244件の受診があり、前年度比102.4%の受診件数となった。

このうち脳ドック、らせんCT胸部検診などの単独での受診が1,175件あり、人間ドックとしての受診は10,069件であった。

##### 2) 検査項目別

部位・臓器・検査方法別の検査結果を以下に示す。

なお、現在医療機関でそれぞれの検査項目に関して治療中か経過観察中のものを「通院中」\*とした。それ以外のものの内、検査項目内の結果がすべて正常であったものを「異常なし」、いずれかの検査結果が正常範囲からはずれているが問題ない範囲のものを「有所見」、経過観察が必要なものを「要観察」、医療機関での精密検査あるいは治療を要するものをそれぞれ「要精検」「要治療」とした。

また、「異常なし」「有所見」以外のものをまとめて「要観察以上」、検診によって新たに医療を要することが指摘された「要精検」「要治療」をまとめて「要医療」とし、各検査項目の受診者全体に対する「要観察以上」「要医療」のもの割合を算出した。

※ R2 年度までの年報では「治療中」としていたが、医療機関で治療中の人だけでなく経過観察中の人も含めていることから、R3 年度から「通院中」の表記に変更した

① 肥満度

BMI18.5 未満を低体重、18.5 以上 25.0 未満を普通体重、25.0 以上 30.0 未満を肥満 1 度、30.0 以上 35.0 未満を肥満 2 度、35.0 以上 40.0 未満を肥満 3 度、40.0 以上を肥満 4 度とした。

肥満 1 度以上のものは男性 2,352 人 (37.1%)、女性 822 人 (22.0%) であった。

	受診者数	低体重	普通体重	肥満 1 度	肥満 2 度	肥満 3 度	肥満 4 度
		-18.49	18.5-24.9	25.0-29.9	30-34.9	35-39.9	40-
男性 (人)	6,332	175 (2.8%)	3,805 (60.1%)	1,909 (30.1%)	356 (5.6%)	73 (1.2%)	14 (0.2%)
女性 (人)	3,741	449 (12.0%)	2,470 (66.0%)	600 (16.0%)	178 (4.8%)	31 (0.8%)	13 (0.3%)

② 血圧

収縮期血圧 134mmHg 以下、拡張期血圧 85mmHg 以下を正常値、収縮期血圧 139mmHg 以下、拡張期血圧 89mmHg 以下を参考基準値とし、「通院中」ではないもので収縮期血圧、拡張期血圧ともに正常値であるものを「異常なし」、いずれかが正常値を超えるものの参考基準値は超えないものを「有所見」とした。

男性の 2,194 人 (34.7%)、女性の 753 人 (20.1%) が「要観察以上」であり、そのうち「通院中」のものは男性 1,303 人 (20.6%)、女性 406 人 (10.9%)、「要医療」のものは男性 228 人 (3.6%)、女性 74 人 (2.0%) であった。

	受診者数	異常なし	有所見	要観察	要精検	要治療	通院中
男性 (人)	6,321	3,388 (53.6%)	739 (11.7%)	663 (10.5%)	0 (0.0%)	228 (3.6%)	1,303 (20.6%)
女性 (人)	3,737	2,685 (71.8%)	299 (8.0%)	273 (7.3%)	0 (0.0%)	74 (2.0%)	406 (10.9%)

③ 心電図

男性の 537 人 (8.5%)、女性の 166 人 (4.5%) が「要観察以上」であり、そのうち「通院中」のものは男性 212 人 (3.4%)、女性 49 人 (1.3%)、「要医療」のものは男性 59 人 (0.9%)、女性 11 人 (0.3%) であった。

	受診者数	異常なし	有所見	要観察	要精検	要治療	通院中
男性 (人)	6,312	4,863 (77.0%)	912 (14.4%)	266 (4.2%)	59 (0.9%)	0 (0.0%)	212 (3.4%)
女性 (人)	3,728	3,095 (83.0%)	467 (12.5%)	106 (2.8%)	11 (0.3%)	0 (0.0%)	49 (1.3%)

④ 検尿

男性の 1,263 人 (20.0%)、女性の 1,195 人 (32.0%) が「要観察以上」であり、そのうち「通院中」のものは男性 113 人 (1.8%)、女性 42 人 (1.1%)、「要医療」のものは男性 144 人 (2.3%)、女性 152 人 (4.1%) であった。

	受診者数	異常なし	有所見	要観察	要精検	要治療	通院中
男性 (人)	6,315	4,103 (65.0%)	949 (15.0%)	1,006 (15.9%)	144 (2.3%)	0 (0.0%)	113 (1.8%)
女性 (人)	3,730	1,478 (39.6%)	1,057 (28.3%)	1,001 (26.8%)	152 (4.1%)	0 (0.0%)	42 (1.1%)

⑤ 肝機能

男性の 1,780 人 (28.2%)、女性の 399 人 (10.7%) が「要観察以上」であり、そのうち「通院中」のものは男性 360 人 (5.7%)、女性 89 人 (2.4%)、「要医療」のものは男性 429 人 (6.8%)、女性 93 人 (2.5%) であった。

	受診者数	異常なし	有所見	要観察	要精検	要治療	通院中
男性 (人)	6,314	2,934 (46.5%)	1,600 (25.3%)	991 (15.7%)	429 (6.8%)	0 (0.0%)	360 (5.7%)
女性 (人)	3,730	2,628 (70.5%)	703 (18.8%)	217 (5.8%)	93 (2.5%)	0 (0.0%)	89 (2.4%)

⑥ 脂質異常症

男性の 3,304 人 (52.3%)、女性の 1,468 人 (39.3%) が「要観察以上」であり、そのうち「通院中」のものは男性 1,113 人 (17.6%)、女性 456 人 (12.2%)、「要医療」のものは男性 335 人 (5.3%)、女性 115 人 (3.1%) であった。

	受診者数	異常なし	有所見	要観察	要精検	要治療	通院中
男性 (人)	6,316	1,538 (24.4%)	1,474 (23.3%)	1,856 (29.4%)	79 (1.3%)	256 (4.1%)	1,113 (17.6%)
女性 (人)	3,733	1,284 (34.4%)	981 (26.3%)	897 (24.0%)	8 (0.2%)	107 (2.9%)	456 (12.2%)

⑦ 耐糖能異常

男性の 1,561 人 (24.7%)、女性の 525 人 (14.1%) が「要観察以上」であり、そのうち「通院中」のものは男性 631 人 (10.0%)、女性 127 人 (3.4%)、「要医療」のものは男性 204 人 (3.2%)、女性 52 人 (1.4%) であった。

	受診者数	異常なし	有所見	要観察	要精検	要治療	通院中
男性 (人)	6,317	2,822 (44.7%)	1,934 (30.6%)	726 (11.5%)	131 (2.1%)	73 (1.2%)	631 (10.0%)
女性 (人)	3,733	2,172	1,036	346	37	15	127

		(58.2%)	(27.8%)	(9.3%)	(1.0%)	(0.4%)	(3.4%)
--	--	---------	---------	--------	--------	--------	--------

⑧ 尿酸

男性の 1,797 人 (28.8%)、女性の 78 人 (2.1%) が「要観察以上」であり、そのうち「通院中」のものは男性 559 人 (9.0%)、女性 15 人 (0.4%)、「要医療」のものは男性 78 人 (1.3%)、女性 2 人 (0.1%) であった。

	受診者数	異常なし	有所見	要観察	要精検	要治療	通院中
男性 (人)	6,238	4,429 (71.0%)	12 (0.2%)	1,160 (18.6%)	0 (0.0%)	78 (1.3%)	559 (9.0%)
女性 (人)	3,695	3,606 (97.6%)	11 (0.3%)	61 (1.7%)	0 (0.0%)	2 (0.1%)	15 (0.4%)

⑨ 血液一般

男性の 752 人 (11.9%)、女性の 803 人 (21.5%) が「要観察以上」であり、そのうち「通院中」のものは男性 47 人 (0.7%)、女性 107 人 (2.9%)、「要医療」のものは男性 164 人 (2.6%)、女性 213 人 (5.7%) であった。

	受診者数	異常なし	有所見	要観察	要精検	要治療	通院中
男性 (人)	6,314	3,942 (62.4%)	1,620 (25.7%)	541 (8.6%)	157 (2.5%)	7 (0.1%)	47 (0.7%)
女性 (人)	3,730	2,157 (57.8%)	770 (20.6%)	483 (12.9%)	150 (4.0%)	63 (1.7%)	107 (2.9%)

⑩ 超音波検査

腹部超音波検査により肝臓、胆嚢、膵臓、腎臓、脾臓等の検査を行った。  
男性の 1,822 人 (56.8%)、女性の 797 人 (44.8%) が「要観察以上」であり、そのうち「通院中」のものは男性 15 人 (0.5%)、女性 13 人 (0.7%)、「要医療」のものは男性 50 人 (1.6%)、女性 28 人 (1.6%) であった。

	受診者数	異常なし	有所見	要観察	要精検	要治療	通院中
男性 (人)	3,205	741 (23.1%)	642 (20.0%)	1,757 (54.8%)	50 (1.6%)	0 (0.0%)	15 (0.5%)
女性 (人)	1,781	636 (35.7%)	348 (19.5%)	756 (42.4%)	28 (1.6%)	0 (0.0%)	13 (0.7%)

⑪ 胸部 X 線検査

CR 装置による直接撮影を行った。

男性の 320 人 (5.1%)、女性の 113 人 (3.1%) が「要観察以上」であり、そのうち「通院中」のものは男性 75 人 (1.2%)、女性 27 人 (0.7%)、「要医療」のものは男性 121 人 (1.9%)、女性 44 人 (1.2%) であった。

	受診者数	異常なし	有所見	要観察	要精検	要治療	通院中
男性 (人)	6,298	5,085 (80.7%)	893 (14.2%)	124 (2.0%)	120 (1.9%)	1 (0.0%)	75 (1.2%)
女性 (人)	3,692	3,214 (87.1%)	365 (9.9%)	42 (1.1%)	44 (1.2%)	0 (0.0%)	27 (0.7%)

#### ⑫ 胃部造影検査

DR 装置による直接撮影を行った。

男性の1,427人(28.8%)、女性の601人(22.8%)が「要観察以上」であり、そのうち「通院中」のものは男性0人(0.0%)、女性0人(0.0%)、「要医療」のものは男性131人(2.6%)、女性34人(1.3%)であった。

	受診者数	異常なし	有所見	要観察	要精検	要治療	通院中
男性 (人)	4,963	2,377 (47.9%)	1,159 (23.4%)	1,296 (26.1%)	131 (2.6%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
女性 (人)	2,631	929 (35.3%)	1,101 (41.8%)	567 (21.6%)	34 (1.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)

#### ⑬ 上部消化管内視鏡検査

上部消化管内視鏡検査の受診者数は943人(男性667人、女性276人)であり、これは胃検診受診者(8,537人)のうち11.0%に相当する。

男性の394人(59.1%)、女性の125人(45.3%)が「要観察以上」であり、そのうち「通院中」のものは男性5人(0.7%)、女性0人(0.0%)、「要医療」のものは男性30人(4.5%)、女性3人(1.1%)であった。

	受診者数	異常なし	有所見	要観察	要精検	要治療	通院中
男性 (人)	667	44 (6.6%)	229 (34.3%)	359 (53.8%)	22 (3.3%)	8 (1.2%)	5 (0.7%)
女性 (人)	276	30 (10.9%)	121 (43.8%)	122 (44.2%)	2 (0.7%)	1 (0.4%)	0 (0.0%)

#### ⑭ 骨密度検査

DXA 法により第2～第4腰椎正面の骨密度を測定した。

男性の12人(44.4%)、女性の195人(77.1%)が「要観察以上」であり、そのうち「通院中」のものは男性1人(3.7%)、女性29人(11.5%)、「要医療」のものは男性1人(3.7%)、女性18人(7.1%)であった。

	受診者数	異常なし	有所見	要観察	要精検	要治療	通院中
男性 (人)	27	15 (55.6%)	0 (0.0%)	10 (37.0%)	1 (3.7%)	0 (0.0%)	1 (3.7%)
女性 (人)	253	58 (22.9%)	0 (0.0%)	148 (58.5%)	18 (7.1%)	0 (0.0%)	29 (11.5%)

### 3) 婦人科検診

#### ① 乳がん検診

乳がん検診として、視触診とマンモグラフィ、乳腺超音波検査とを行った。なお、乳房視触診は検診委託元から実施依頼があった場合に限り実施した。

乳がん検診の総受診者数は3,186人であり、そのうち、マンモグラフィ受診者は2,235人、乳腺超音波検査受診者は1,529人であった。

乳がん検診受診者の206人(6.5%)が「要観察以上」であり、そのうち「通院中」のものは19人(0.6%)、「要医療」のものは64人(2.0%)であった。マンモグラフィでは、124人(5.5%)が「要観察以上」であり、そのうち「通院中」のものは7人(0.3%)、「要医療」のものは44人(2.0%)であった。乳腺超音波検査では64人(4.2%)が「要観察以上」であり、そのうち「通院中」のものは9人(0.6%)、「要医療」のものは12人(0.8%)であった。

乳がん検診	受診者数	異常なし	有所見	要観察	要精検	要治療	通院中
女性(人)	3,186	658 (20.7%)	2,322 (72.9%)	123 (3.9%)	64 (2.0%)	0 (0.0%)	19 (0.6%)
マンモグラフィ	受診者数	異常なし	有所見	要観察	要精検	要治療	通院中
女性(人)	2,235	350 (15.7%)	1,761 (78.8%)	73 (3.3%)	44 (2.0%)	0 (0.0%)	7 (0.3%)
乳腺超音波検査	受診者数	異常なし	有所見	要観察	要精検	要治療	通院中
女性(人)	1,529	543 (35.5%)	922 (60.3%)	43 (2.8%)	12 (0.8%)	0 (0.0%)	9 (0.6%)

#### ② 子宮がん検診

子宮がん検診として、子宮頸部細胞診と婦人科診察、経膈超音波検査を行った。

子宮がん検診の受診者数は2,692人であった。

受診者の474人(17.6%)が「要観察以上」であり、そのうち「通院中」のものは56人(2.1%)、「要医療」のものは202人(7.5%)であった。なお、子宮頸部細胞診で「要精検」であったものは40人(1.5%)であった。

子宮がん検診	受診者数	異常なし	有所見	要観察	要精検	要治療	通院中
女性(人)	2,692	2,215 (82.3%)	3 (0.1%)	216 (8.0%)	149 (5.5%)	53 (2.0%)	56 (2.1%)

## 2. 脳ドック

脳ドックの受診者数は329人(男性226人、女性103人)であった。

男性の24人(10.6%)、女性の13人(12.6%)が「要観察以上」であり、そのうち「通院中」のものは男性0人(0.0%)、女性2人(1.9%)、「要医療」のものは男性11人(4.9%)、女性8人(7.8%)であった。

	受診者数	異常なし	有所見	要観察	要精検	要治療	通院中
男性（人）	226	118 (52.2%)	84 (37.2%)	13 (5.8%)	11 (4.9%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
女性（人）	103	50 (48.5%)	40 (38.8%)	3 (2.9%)	8 (7.8%)	0 (0.0%)	2 (1.9%)

### 3. らせんCT胸部検診

らせんCT胸部検診の受診者数は269人（男性243人、女性26人）であった。

男性の43人（17.7%）、女性の8人（30.8%）が「要観察以上」であり、そのうち「通院中」のものは男性1人（0.4%）、女性0.4人（0.0%）、「要医療」のものは男性11人（4.5%）女性4人（15.4%）であった。

	受診者数	異常なし	有所見	要観察	要精検	要治療	通院中
男性（人）	243	15 (6.2%)	185 (76.1%)	31 (12.8%)	11 (4.5%)	0 (0.0%)	1 (0.4%)
女性（人）	26	2 (7.7%)	16 (61.5%)	4 (15.4%)	4 (15.4%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)

## (6) 健康診断(施設健診)部門

平成30年4月より附属病院の健康診断部門を引き継ぎ、事業所法定健診・特殊健診・特定健診・後期高齢者健診・岡山市がん検診等を実施している。

### 1. 令和4年度健診種別件数 (人)

事業所健診 (一般定期)	事業所健診 (特 殊)	個人健診 雇入れ健診	岡山市がん検診 (胃・大腸・肺)	特定健診	後期高齢者 健診
5011	625	513	1104	638	43

### 2. 令和4年度岡山市がん検診要精密検査数 (人)

種 別	受診者数	要精検者数
胃がん(胃 XP 検査)	106	4
胃がん(胃内視鏡)	50	4
肺がん	492	19
大腸がん	456	34

### 3. 令和4年度特定健診保健指導対象者数 (人)

健康保険組合名	実施者数	動機づけ支援	積極的支援
岡山市国民健康保険組合	460	48	19
全国健康保険協会(協会けんぽ)	130	6	4
日本私立学校振興・共済事業団	0	0	0

## 7 普及啓発事業

### (1) 財団の広報

県民の健康づくり、医療や疾病予防、生活環境の保全等に資する各種情報を提供するため、LINE、Facebook等のソーシャルメディアやホームページを充実させるなど、デジタル媒体を積極的に活用した。

### (2) 結核予防に関する事業

結核は、約60年前までは、死亡原因の第一位であったが医療や生活水準の向上により、薬による完治が可能になった。しかし依然として岡山県においても年間約180名の患者が発生する重大な感染症であることから啓発活動を行っている。

#### 1) 広報・募金活動

結核予防思想の普及と事業資金確保のため世界中で行われている複十字シール運動（8月1日～12月31日）について、県、市町村及び岡山県愛育委員連合会の協力を得て、積極的に普及啓発活動及び募金活動を実施した。また結核予防週間（9月24日～30日）を中心に結核予防に関するポスター（3,000部）等の広報資材を、保健所、市町村、病院等を通じて広く県民に配布し啓発に努めた。

- ・募金額 1,852,609円（令和5年3月31日現在）
- ・募金の使途 胸部疾患予防思想の普及啓発事業

#### 2) 知事表敬訪問

例年、全国一斉複十字シール運動（8月1日～12月31日）の開始に合わせて、理事長が岡山県結核予防婦人会・岡山県愛育委員連合会長とともに知事を表敬訪問し、結核の現状報告及び複十字シール運動への理解と協力を要請した。

### (3) がん予防に関する事業

#### 1) 「がん征圧月間」における活動

8月29日、岡山県医師会館において、県、岡山県医師会との共催により、「がん征圧岡山県大会」を開催した。（参加者約150名）

同大会では、がん対策功労者への表彰や、若手研究者に対する助成金の贈呈を行うとともに、「がん予防と早期発見ー大腸がんー」をテーマとする講演会を開催した。

## 2) キャンペーン放送の実施

岡山県医師会との共催により、山陽放送を通じて、テレビ1回、ラジオ2回のキャンペーン放送を実施した。

## 3) その他の啓発活動

がん検診の受診を推進するため、日本対がん協会本部が作成したポスター2種類を各保健所・病院・学校等に配布し、がん検診受診の啓発及び予防意識の高揚に努めた。

## 4) 募金

看護協会から寄せられた1,900,693円をはじめ、548件、3,364,591円の募金を頂き、対がん普及活動として活用するとともに、今後のがん予防活動に役立てるため、対がん基金への積み立てを行った。

# (4) 禁煙の普及啓発に関する事業（岡山県禁煙問題協議会）

## 1) 街頭キャンペーンの実施

たばこの害と健康への影響について深く理解してもらうため、県、市町村及び県薬剤師会と連携し、5月31日の世界禁煙デーに、岡山駅で禁煙啓発用チラシとポケットティッシュを配布したほか、岡山県立図書館の協力を得て、館内にポケットティッシュを備え置くとともに、LINEによる情報提供を行うなど、一層の啓発の促進を図った。

## 2) ポスターコンクールの開催

県下の小学4年生から6年生を対象に、禁煙啓発ポスターコンクールを主催し、作品を募集した。72名の応募の中から、入賞者8名を選定し、9月のがん征圧月間に合わせて入賞作品・優秀作品（佳作）を岡山県庁及び南部健康づくりセンターにて展示するとともに、入賞作品を掲載したカレンダーを作成し、関係機関へ配布した。

## 3) 講師の派遣

教育機関等で開催された禁煙に関する研修等に、医師を講師として派遣し禁煙の啓発に努めた。

## 4) 募金

禁煙普及啓発を推進するために、当協議会に348件487,000円の募金を頂いた。

## (5) 助成事業

### 1) がん助成

がんに関する研究・研修事業に対して助成を行った。

- ・ 遺伝性骨・軟部腫瘍に対するがんサーベイランスによるがんの早期診断・早期治療の有用性の検証と新規バイオマーカーを探索する前方視的臨床試験

岡山大学学術研究院医歯薬学域 運動器外傷学講座

准教授 中田 英二 氏

- ・ 口腔内・胃内細菌叢の遺伝子解析によるH. pylori 除菌後胃癌のリスク因子解明

川崎医科大学 消化器内科学

特任准教授 半田 修 氏

- ・ ALK融合遺伝子陽性肺癌に対するアレクチニブの早期耐性機序の解明と根治戦略の開発

岡山大学病院 呼吸器・アレルギー内科

助教 槇本 剛 氏

### 2) 健康づくり関係団体への助成

県民の健康づくりを推進している、岡山県愛育委員連合会、岡山県栄養改善協議会の関係団体に助成を行った。

## (6) 会議等の開催

区 分	開催 年月日	会 場	議 題
会計監査 第1回会計監査 第2回会計監査	R4. 4. 21 R4. 5. 25	岡山県南部健康づくりセンター 研修室2 研修室2	1. 令和3年度決算について
業務監査	R4. 5. 31	岡山県南部健康づくりセンター 研修室2	1. 令和3年度事業実績について 2. 令和3年度決算について
臨時評議員会	R4. 4. 1	—	1. 理事の選任について
第1回理事会	R4. 6. 9	岡山県南部健康づくりセンター 大会議室	1. 令和3年度事業報告 2. 令和3年度決算報告 3. 令和4年度第1回収支補正予算（案） 4. 定時評議員会の招集（案）
定時評議員会	R4. 6. 28	岡山県南部健康づくりセンター 大会議室	1. 令和3年度決算報告 2. 評議員の選任（案） 3. 理事の選任（案） 4. 令和3年度事業報告 5. 財団設立30周年記念事業について
臨時評議員会	R4. 8. 18	—	1. 評議員の選任について
臨時理事会	R4. 10. 7	—	1. 岡山県南部健康づくりセンターの指定管理申請（案）
第2回理事会	R5. 3. 28	岡山県南部健康づくりセンター 大会議室	1. 公益財団法人岡山県健康づくり財団組織規則の一部改正（案） 2. 公益財団法人岡山県健康づくり財団就業規則の一部改正（案） 3. 令和5年度事業実施計画（案） 4. 令和5年度収支計画（案） 5. 第6期中期経営計画（案） 6. 役員賠償責任保険について（案）



## 令和4年度 事業年報

発行 公益財団法人 岡山県健康づくり財団  
〒700-0952 岡山市北区平田 408-1  
TEL 086-246-6254 FAX 086-246-6258  
E-mail : zaidan@okakenko.jp